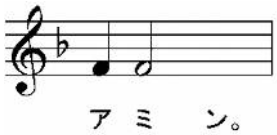
2011年3月 釧路管轄司祭ステファン内田 作成
2023年3月 〃 追加

大齋第４週金曜日第７調の

先 備 聖 體 禮 儀

【 第九時課 （第六時課から続く時は２ページの【 常例の聖詠 】から） 】

司祭） 我等の神は恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に、



誦經） 我等の神よ、光榮は爾に歸す、光榮は爾に歸す、

天の王慰むる者よ、眞實の神、在らざる所なき者、満たざる所なき者よ、萬善の寶蔵なる者、生命を賜うの主よ、來りて我等の中に居り、我等を諸の穢より潔くせよ。

至善者よ、我等の靈を救い給え。

聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者よ、我等を憐めよ。

聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者よ、我等を憐めよ。

聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者よ、我等を憐めよ。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、アミン。

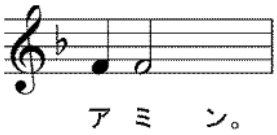
至聖三者よ我等を憐めよ、主よ我等の罪を潔くせよ、主宰よ我等の愆を赦せ、聖なる者よ臨みて我等の病を癒し給え、悉く爾の名に因る。

主憐めよ、主憐めよ、主憐めよ、

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、アミン。

天に在す我等の父よ、願は爾の名は聖とせられ、爾の國は來り、爾の旨は天に行わるるが如く地にも行われん。我日用の糧を今日我等に與え給え。我等に債ある者を我等免すが如く我等の債を免し給え。我等を誘に導かず、猶我等を凶惡より救い給え。

司祭） 蓋國と權能と光榮は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、



誦經）主 憐 めよ、主 憐 めよ、主 憐 めよ、主 憐 めよ、主 憐 めよ、主 憐 めよ、

主 憐 めよ、主 憐 めよ、主 憐 めよ、主 憐 めよ、主 憐 めよ、主 憐 めよ、

光 榮は父と子と聖 神に歸す、今も何時も世世に、アミン。

【　常例の聖詠　】（第六時課から続く時はここから）

來れ、我等の王・神に叩 拜せん。

來れ、ハリストス・我等の王・神に叩 拜俯伏せん。

來れ、ハリストス・我等の王と神の前に叩 拜俯伏せん。

【　第８３聖詠　】

萬 軍の主よ、爾 の住所は何ぞ愛すべき。我が 靈 は厚く慕いて主の庭を望み、我が 心 我が身は生 活の神に馳す。萬 軍の主、我が王、我が神よ、雀 も 己 の 宿 を獲、燕 も 己 の 巣を獲て、雛 を 爾 が祭 壇の 傍 に置く。爾 の家に住む者は 福 なり、彼等は常に 爾 を讚め揚げん。 力 を 爾 に恃み、 心 の路を 爾 に向くる人は 福 なり。彼等は 涙 の谷を過りて、其 中に 泉 を得、雨は降 福にて之を覆う、彼等は 力 より 力 に進み、シオンに於て神の前に 顯 る。主、萬 軍の神よ、我が 禱 を聽け、イァコフの神よ、聽き納れ給え。神、我等を衞る主よ、俯して 爾 が 膏 つけられし者の 面 を視よ。蓋 一 日 爾 の庭に在るは千 日に勝る、我 惡 者の幕に住まんよりは、寧 神の家の 閾 の 側 に居らん。蓋 主 神は日なり、盾なり、主は恩 寵 と光 榮とを賜う、 行 の玷なき者より幸 福を奪わず。萬 軍の主よ、爾 を恃む人は 福 なり。

【　第８４聖詠　】

主よ、爾 は已に 憐 を 爾 の地に 施 し、イァコフの 俘 を歸せり、爾 の民の不法を赦し、其 凡ての罪を掩い、 爾 が 悉 くの 忿 を寵め、 爾 が 怒 の烈しきを除き給えり。我が 救 の神よ、我等を起こし、爾 が我等に於ける 憤 を釋き給え。豈に永く我等を忿り、爾 の 怒

を世世に伸べんとするか、豈に新に我等を活かして、爾の民に爾の事を悦ばしめざらんとするか。主よ、爾の憐を我等に顯し、爾の救を我等に施し給え。我は主神の言わんとする所を聽かん、彼は平安を其民と其の選びし者に謂わん、唯願くは彼等は再無智に陥らざらん。此くの如く彼の救は彼を畏るる者に邇し、光榮の我が地に居らん爲なり。慈憐と眞實と相交り、義と和平と相接吻せん、眞實は地より出で、義は天より臨まん、主は、幸福を與え、我が地は其果を與えん、義は彼の前に行き、其足を路に立てん。

【 第８５聖詠 】

主よ、爾の耳を傾けて我に聽き給え、我乏しくして貧しければなり。我が靈を護れ、我爾の前に愼めばなり、我が神よ、爾を恃める爾の僕を救い給え。主よ、我を憐め、我日日に爾に呼べばなり。爾の僕の靈を樂ましめ給え、主よ、我が靈を爾に擧ぐればなり、蓋主よ、爾は仁慈・慈憐にして、凡そ爾を呼ぶ者に洪恩なり。主よ、我が禱を聽き、我が願の聲を聆き納れ給え。我が憂の日に爾に呼ぶ、爾我に聽かんとすればなり。主よ、諸神の中爾に如く者なく、爾の作爲に如くはなし。主よ、爾に造られし萬民は來たりて爾の前に伏拜し、爾の名を讃榮せん、蓋爾は大にして、奇蹟を行う、爾神よ、獨爾なり。主よ、我を爾の路に導き給え、然せば我爾の眞理に行かん、我が心を爾の名を畏るる畏に固め給え。主我が神よ、我心を盡して爾を讃美し、永く爾の名を讃榮せん、蓋我に於ける爾の憐は大なり、爾は我が靈を甚と深き地獄より援け給えり。神よ、驕る者は起ちて我を攻め、暴虐者の黨は我が靈を尋ぬ、彼等は爾を己の前に置かず。然れども爾主、宏慈にして矜恤、寛忍にして洪恩、眞實なる神よ、我を顧み、我を憐み、爾の力を爾の僕に賜い、爾の婢の子を救い給え。恩の徵を我に顯し給え、我を疾む者は之を見て爲に愧を得ん、爾主よ、我を助け、我を慰め給いしに因る。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、アミン。

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神よ光榮は爾に歸す。

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神よ光榮は爾に歸す。

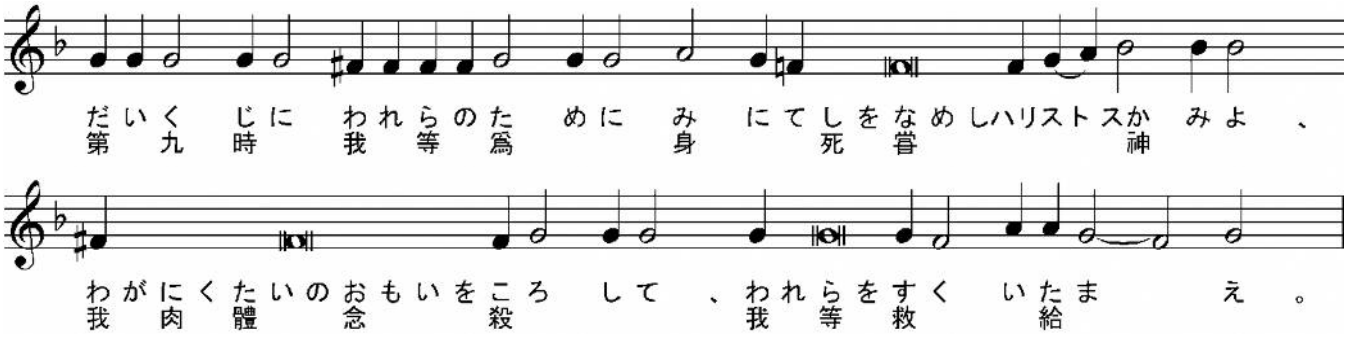
アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神よ光榮は爾に歸す。

【　指定された坐誦經（通常は省略）　】

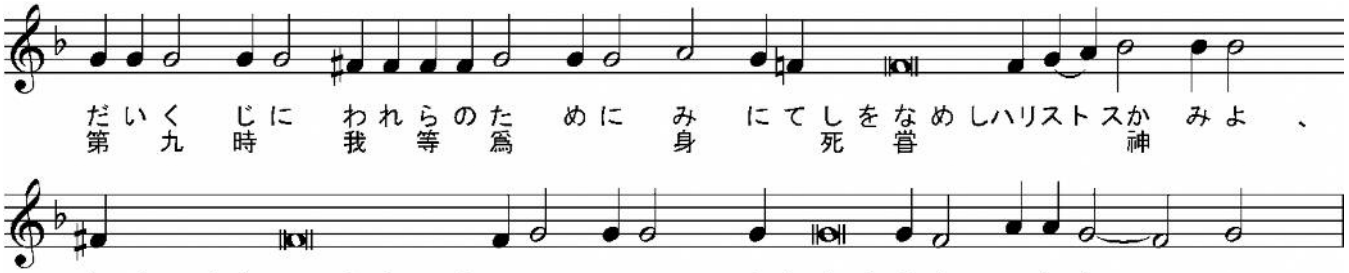
主憐めよ、主憐めよ、主憐めよ、

【　第九時課の讃詞　】

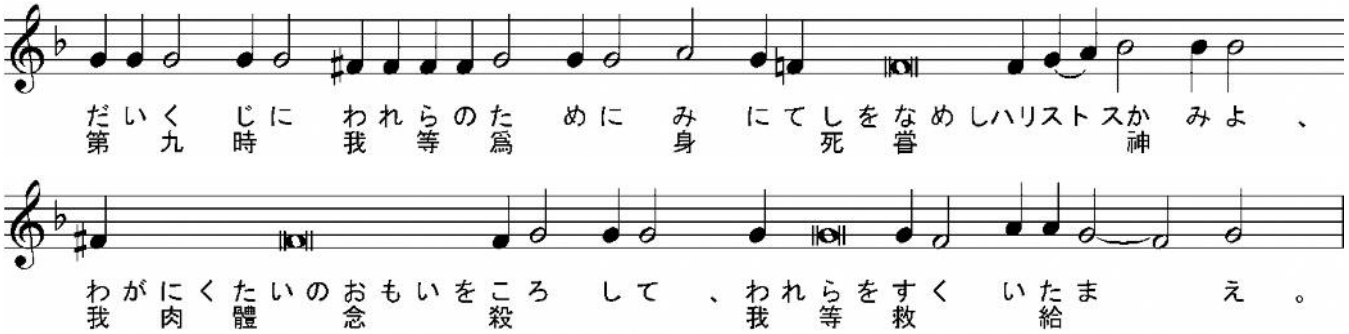
司祭）第九時に我等の爲に身にて死を嘗めしハリストス神よ、我が肉體の念を殺して我等を救い給え。



司祭）主よ願くは我が籲聲は爾が顔の前に邇かん、爾の言に依て我を悟らせ給え。



司祭）願くは我が禱は爾が顔の前に至らん、爾の言に依て我を救い給え。



司祭）光榮は父と子と聖神に歸す、

誦經）今も何時も世世に、アミン。

我等の爲に童貞女より生れ、十字架に釘うたるるを忍び、神なるに依りて死にて死を滅し、復活を顯しし仁慈なる主よ、爾の手にて造りし者を棄つる勿れ、慈憐の主よ、爾が人を愛

する愛を顯して、我等の爲に祈禱する所の爾を生みし生神女を受け給え、我が救主よ、望を失える人人を救い給え。

爾の名に因りて我等を終まで棄つる勿れ、爾の盟約を破る勿れ、爾の憐を我等より除く勿れ、爾が愛する所のアヴラアムと、爾の僕イサァクと、爾の聖なるイズライリとに因りてなり。

聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者よ、我等を憐めよ。

聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者よ、我等を憐めよ。

聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者よ、我等を憐めよ。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、アミン。

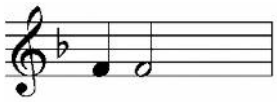
至聖三者よ我等を憐めよ、主よ我等の罪を潔くせよ、主宰よ我等の愆を赦せ、聖なる者よ臨みて我等の病を癒し給え、悉く爾の名に因る。

主憐めよ、主憐めよ、主憐めよ、

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、アミン。

天に在す我等の父よ、願は爾の名は聖とせられ、爾の國は來り、爾の旨は天に行わるるが如く地にも行われん。我日用の糧を今日我等に與え給え。我等に債ある者を我等免すが如く我等の債を免し給え。我等を誘に導かず、猶我等を凶惡より救い給え。

司祭）蓋國と權能と光榮は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、



アミン。

誦經）盜賊は生命の首が十字架に懸れるを見て曰えり、我等と共に釘うたれし者は、若し身を取りし神に非ずば、日は其光線を隠さず、地も戰い慄かざらん、萬の事を忍ぶ主よ、爾の國に於て我を憶い給え。

光榮は父と子と聖神に歸す、

爾の十字架は二人の盜賊の間に在りて義の權衡と爲れり、一人は謗の重きを以て地獄に

降され、一人は罪を釋かれ輕く昇せられて、ハリストス神よ、光榮は爾に歸すと讃揚するを悟れり。

今も何時も世世に、アミン。

爾を生みし者は爾羔にして牧者たる世界の救主が十字架に在るを見て、泣きて曰えり、吾が子吾が神よ、世界は救を獲て喜び、我は爾が衆人の爲に忍びて釘うたるるを見て心を灼けり。

主憐めよ、主憐めよ、主憐めよ、主憐めよ、主憐めよ、主憐めよ、

主憐めよ、主憐めよ、主憐めよ、主憐めよ、主憐めよ、主憐めよ、

何の日何の時にも、天にも地にも叩拜讃榮せられ、寛忍、鴻慈、至善にして義人を愛し、罪人を憐み、來世の福を約して萬の者を救に招くハリストス神よ、爾主よ、親ら我が此の時の禱をも受け、我等の生命を爾の誡に向わしめ給え、我等の靈を聖にし、體を潔くし、慮を直くし、思を淨くし、我等を悉くの憂と禍と疾より救い、爾の聖なる天使を以て我等を環り、我等が其圍に衛り導かれて、信の一なると爾の近づき難き光榮を悟るに至らせ給え、蓋爾は世世に崇め讃めらる、アミン。

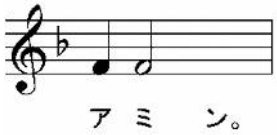
主憐めよ、主憐めよ、主憐めよ、

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、アミン。

ヘルヴィムより尊くセラフィムに並びなく榮え、貞操を壞らずして神言を生みし、實の生神女たる爾を崇め讃む。

神父よ、主の名を以て福を降せ、

司祭）神よ、我等に恩を被らせ、我等に福を降し、爾が顔を以て我等を照し、並に我等を憐み給え、



【　聖エフレムの祝文　】

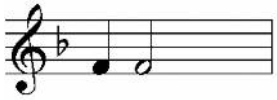
司祭）主、我が生命の主宰よ、怠惰と愁悶と陵駕と空談の情を我に與うる勿れ、

貞操と謙遜と忍耐と愛の情を我爾の僕に與え給え、

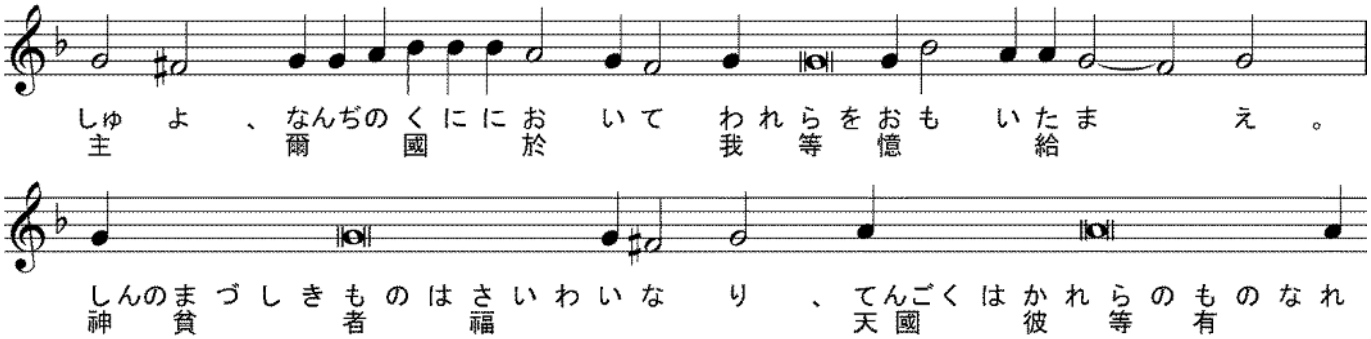
嗚呼、主王よ、我に我が罪を見、我が兄弟を議せざるを賜え、蓋爾は世世に崇め讃めらる、

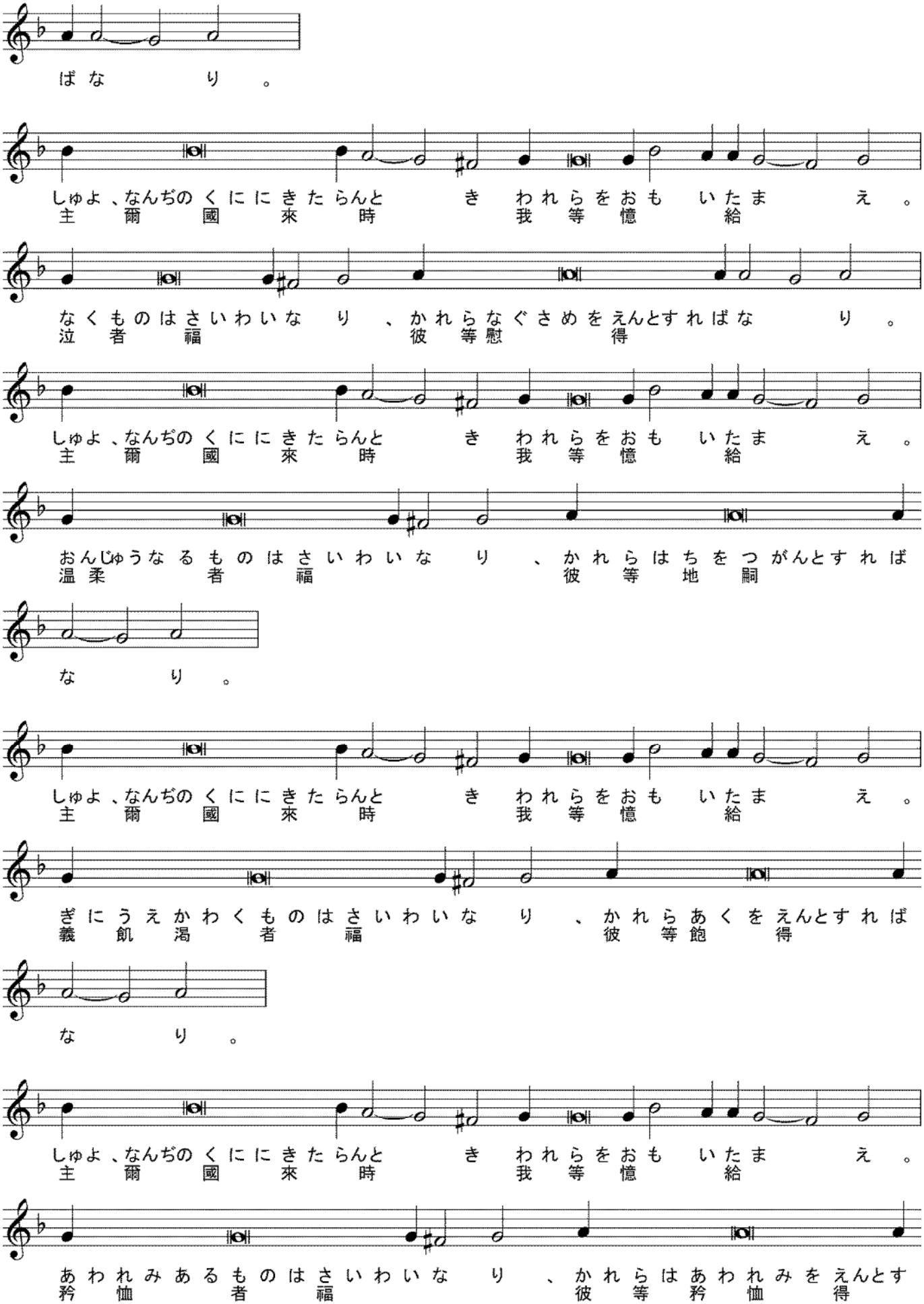
アミン。

誦經）主宰イイススハリストス吾が神よ、我等の罪を寛忍して、我等を今の時に至らしめ給いし主よ、昔此の時に生命を施す木に懸りて、善智なる盗賊の爲に天堂の道を啓き、死を以て死を滅し給いし主よ、我等罪なる爾の當らざる僕を淨め給え、我等罪を犯し、不法を行い、目を擧げて天の高きを見るに堪えざればなり、蓋爾の義の道を離れ、私慾を恣にして日を送れり。主よ、爾の量り難き仁慈に祈る、爾が多くの憐に因りて我等を宥め、爾の聖なる名に因りて我等を救い給え、我が日空しく消ゆればなり。我等を敵の手より援け給え、我等が諸の罪を赦し給え、我等が肉體の念を殺し給え、我等舊き人を脱ぎ、新しき人を衣、爾我等の主宰及び恩者の爲に生きん爲なり。此くの如く爾の誡に遵いて、悉くの樂しむ者の住所なる永遠の安息に至らん、蓋ハリストス吾が神よ、爾は實に爾を愛する者の眞の樂と喜なり。我等爾と、爾の無原の父と、至聖至仁生命を施す爾の神とに光榮を歸す、今も何時も世世に、



【 聖體禮儀代式（ティピカ）】




ばなり。
しゅよ、なんぢのくににきたらんとき われらをおもいたまえ。
主爾國來時我等憶給
なくものはさいわいなり、かれらなぐさめをえんとすればなり。
泣者福彼等慰得
しゅよ、なんぢのくににきたらんとき われらをおもいたまえ。
主爾國來時我等憶給
おんじゅうなるものはさいわいなり、かれらはちをつがんとすれば
温柔者福彼等地嗣
なり。
しゅよ、なんぢのくににきたらんとき われらをおもいたまえ。
主爾國來時我等憶給
ぎにうえかわくものはさいわいなり、かれらあくをえんとすれば
義飢渇者福彼等飽得
なり。
しゅよ、なんぢのくににきたらんとき われらをおもいたまえ。
主爾國來時我等憶給
あわれみあるものはさいわいなり、かれらはあわれみをえんとす
矜恤者福彼等矜恤得

れ ば な り 。

しゅよ、なんぢのくににきたらんとき われらをおもいたまえ。
主 爾 國 來 時 我 等 憶 給

こころのきよきものはさいわいなり、かれらかみをみんとすれば
心 清 者 福 彼 等 神 見

な り 。

しゅよ、なんぢのくににきたらんとき われらをおもいたまえ。
主 爾 國 來 時 我 等 憶 給

わへいをおこなうものはさいわいなり、かれらかみのことなづ
和 平 行 者 福 彼 等 神 子 名

けられんとすればなり。

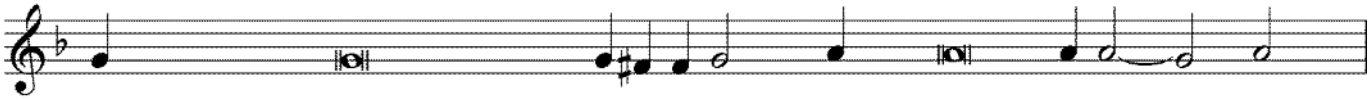
しゅよ、なんぢのくににきたらんとき われらをおもいたまえ。
主 爾 國 來 時 我 等 憶 給

ぎのためにきんちくせらるるものはさいわいなり、てんごくはかれ
義 爲 窘 逐 者 福 天 國 彼

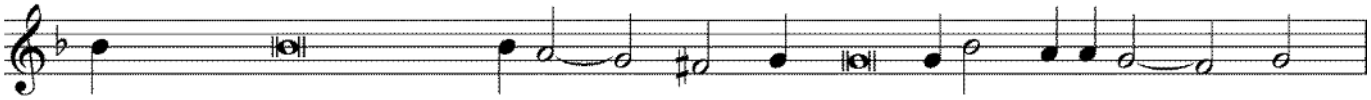
らのものなればなり。
等

しゅよ、なんぢのくににきたらんとき われらをおもいたまえ。
主 爾 國 來 時 我 等 憶 給

ひとわれのためになんぢらをののしり、きんちくしなんぢらのことをいつわりて
人我爲爾等詬窘逐爾等事譌



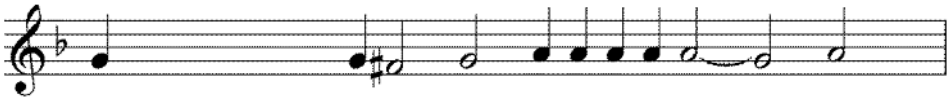
もろもろのあしきことばをいわんときは、なんぢらさいわいなり。
諸惡言言時爾等福



しゅよ、なんぢのくににきたらんときわれらをおもいたまえ。
主爾國來時我等憶給

よろこびたのしめよ、てんにはなんぢらのむくいおおければなり。
喜樂天爾等賞多

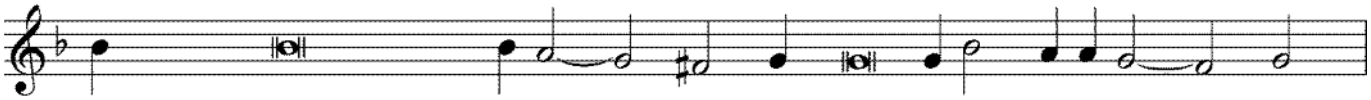
しゅよ、なんぢのくににきたらんときわれらをおもいたまえ。
主爾國來時我等憶給



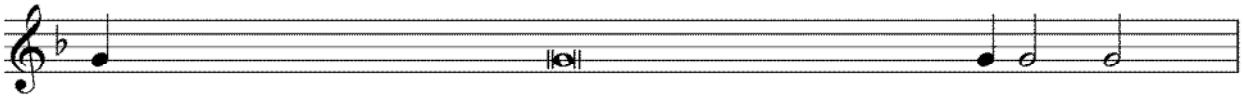
こうえいはちちとこと せいしんにきす。
光榮父子聖神歸

しゅよ、なんぢのくににきたらんときわれらをおもいたまえ。
主爾國來時我等憶給

いまもいつもよよに、アミン。
今何時世世

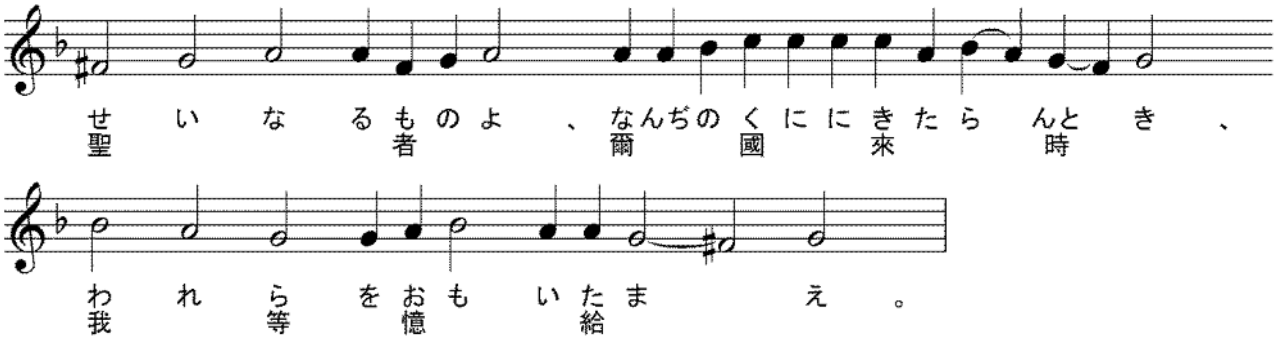


しゅよ、なんぢのくににきたらんときわれらをおもいたまえ。
主爾國來時我等憶給



しゅよ、なんぢのくににきたらんときわれらをおもいたまえ。
主爾國來時我等憶給

しゅさいよ、なんぢのくににきたらんときわれらをおもいたまえ。
主宰爾國來時我等憶給



誦經）天軍爾を歌いて曰う、聖、聖、聖なる哉主サヴァオフ、爾の光榮は天地に徧し。

目を擧げて彼を仰ぐ者は照らされたり、彼等の面は愧を受けざらん。

天軍爾を歌いて曰う、聖、聖、聖なる哉主サヴァオフ、爾の光榮は天地に徧し。

光榮は父と子と聖神に歸す、

聖天使及び天使首の群は衆天軍と共に爾を歌いて曰う、聖、聖、聖なる哉主サヴァオフ、爾の光榮は天地に徧し。

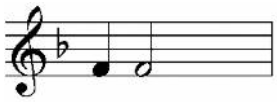
今も何時も世世に、アミン。

我信ず、一の神・父・全能者、天と地、見ゆると見えざる萬物を造りし主を。又信ず、一の主イイススハリストス神の獨生の子、萬世の前に父より生れ、光よりの光、眞の神よりの眞の神、生れし者にて造られしに非ず、父と一體にして萬物彼に造られ、我等人人の爲、又我等の救の爲に天より降り、聖神及び童貞女マリヤより身を取り人と爲り、我等の爲にポンティイピラトの時、十字架に釘うたれ苦を受け葬られ、第三日に聖書に應いて復活し、天に升り父の右に坐し、光栄を顯して生ける者と死せし者とを審判する爲に還來り、其國終なからんを。又信ず、聖神・主・生を施す者、父より出で、父及び子と共に拜まれ讃められ、預言者を以て嘗て言いしを。又信ず、一の聖なる公なる使徒の教會を。我認む、一の洗礼、以て罪の赦を得るを。我望む、死者の復活、並に來世の生命を、アミン。

神よ、我が自由と自由ならざると、言と行と、知ると知らざると、晝に夜に、思と心にて犯しし諸の罪を宥め、之を釋き、之を赦せ、仁慈にして人を愛する主よ、皆我等に赦し給え。

天に在す我等の父よ、願は爾の名は聖とせられ、爾の國は來り、爾の旨は天に行わるるが如く地にも行われん。我日用の糧を今日我等に與え給え。我等に債ある者を我等免すが如く我等の債を免し給え。我等を誘に導かず、猶我等を凶惡より救い給え。

司祭) 蓋國と權能と光榮は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、



アミン。

誦經) 甘んじて十字架に擧げられしハリストス神よ、爾が同名の新なる住所に爾の惠を垂れ給え、爾の力を以て此を樂ませ、其諸敵に勝たしめ給え、此爾が和平の武器、勝たれぬ勝を以て其助とすればなり。

光榮は父と子と聖神に歸す、

ハリストスよ、爾が僕婢の靈を諸聖人と偕に、疾も悲も歎もなく、惟終なき生命のある處に安んぜしめ給え。

今も何時も世世に、アミン。

ハリスティアニン等の辱を得ざる轉達、造物主の前に變らざる中保よ、罪なる者の禱の聲を斥くる勿れ、仁慈なるに依りて速に我等を助け給え、蓋我等切に爾に呼ぶ、生神女よ、爾を尊む者に常に代りて、急ぎて禱り、切に求め給え。

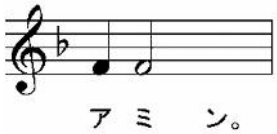
主憐めよ、主憐めよ、主憐めよ、

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、アミン。

ヘルヴィムより尊くセラフィムに並びなく榮え、貞操を壞らずして神言を生みし、實の生神女たる爾を崇め讚む。

神父よ、主の名を以て福を降せ、

司祭) 神よ、我等に恩を被らせ、我等に福を降し、爾が顏を以て我等を照し、並に我等を憐み給え、



【　聖エフレムの祝文　】

司祭）主、我が生命の主宰よ、怠惰と愁悶と陵駕と空談の情を我に與うる勿れ、

貞操と謙遜と忍耐と愛の情を我爾の僕に與え給え、

嗚呼、主王よ、我に我が罪を見、我が兄弟を議せざるを賜え、蓋爾は世世に崇め讃めらる、

アミン。

神よ我罪人を淨め給え、神よ我罪人を淨め給え、神よ我罪人を淨め給え、

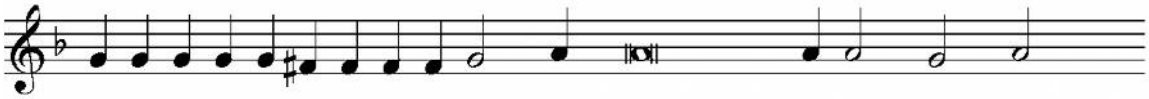
神よ我罪人を淨め給え、神よ我罪人を淨め給え、神よ我罪人を淨め給え、

主、我が生命の主宰よ、怠惰と愁悶と陵駕と空談の情を我に與うる勿れ、貞操と謙遜と忍耐と愛の情を我爾の僕に與え給え、嗚呼、主王よ、我に我が罪を見、我が兄弟を議せざるを賜え、蓋爾は世世に崇め讃めらる、アミン。

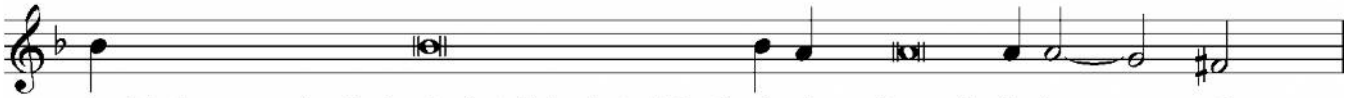
誦經）至聖なる三者、一性の權柄、分れざる國、萬善の源よ、我罪人の爲にも慮り給え。我が心を固め、之を悟らせ、我が諸の汚を除き給え。我が智識を照し、我に常に讃榮讃頌叩拜して誦えさせ給え、聖なるは一、主なるは一、神父の光榮を顯すイイススハリストスなり、アミン。

信者よ、來りて、生命を施す木に伏拜せん。昔敵は逸樂を餌にして我等より福を奪い、我等を神より遠ざけられし者と爲せり、今ハリストス光榮の王は甘じて其上に手を舒べて、我等を初の福に擧げ給えり。信者よ、來りて、聖なる木に伏拜せん、我等は、此を以て見えざる敵の首を碎くに堪うる者と爲れり。諸族諸民よ、來りて、歌を以て主の十字架を尊まん。墜ちたるアダムの全き救なる十字架よ、慶べ、虔誠なる諸王は爾を以て詡と爲す、爾の力に因りて異民を制服すればなり。我等ハリスティアニンは今畏を以て爾に接吻して、爾の上に釘せられし神を讃榮して曰う、其上に釘せられし主よ、我等を憐み給え、爾は仁慈にして人を愛する主なればなり。

司祭）睿智、

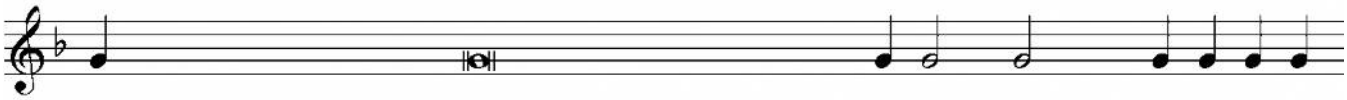


つねにさいわいにして　まったくきずなきしょ　うしんぢょ、
常　福　全　瑕　生　神　女

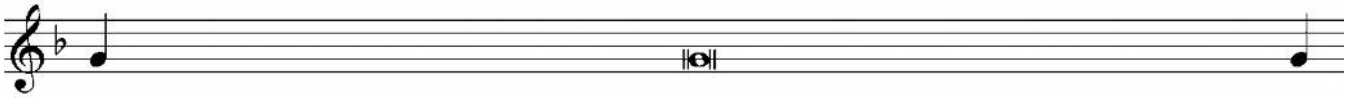


わがかみのははなるなんぢをさんびするはまことにあたれ　り。
吾　神　母　爾　讃美　眞　當

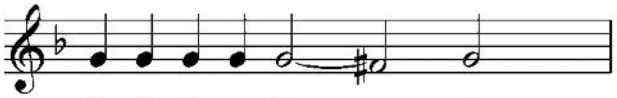
司祭）至聖なる生神女よ、我等を救い給え、



ヘルヴィムよりとぅとくセラフィムにならびなくさか　え　、みさおを
尊　並　榮　貞操

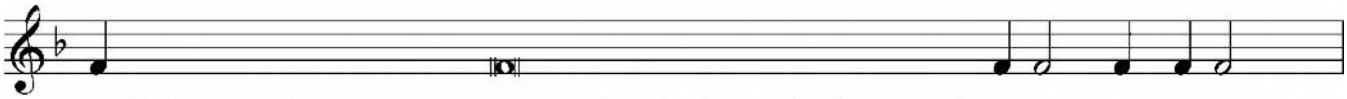


やぶらずしてかみことばをうみしじつのしょうしんぢょたるなんぢを
壞　神　言　生　實　生　神女　爾

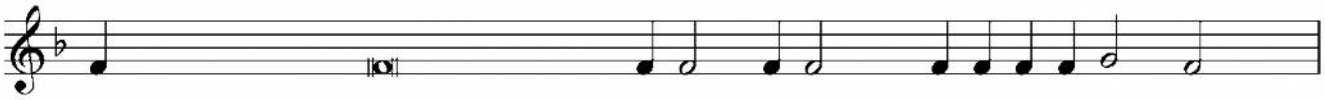


あがめほ　む。
崇　讃

司祭）ハリストス神我等の恃よ、光榮は爾に歸す、光榮は爾に歸す、

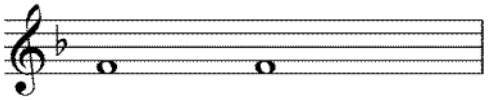


こうえいはちちとことせいしんにきす、いまもいつもよよ　に、アミ　ン。
光　榮　父　子　聖　神　歸　今　何時　世世

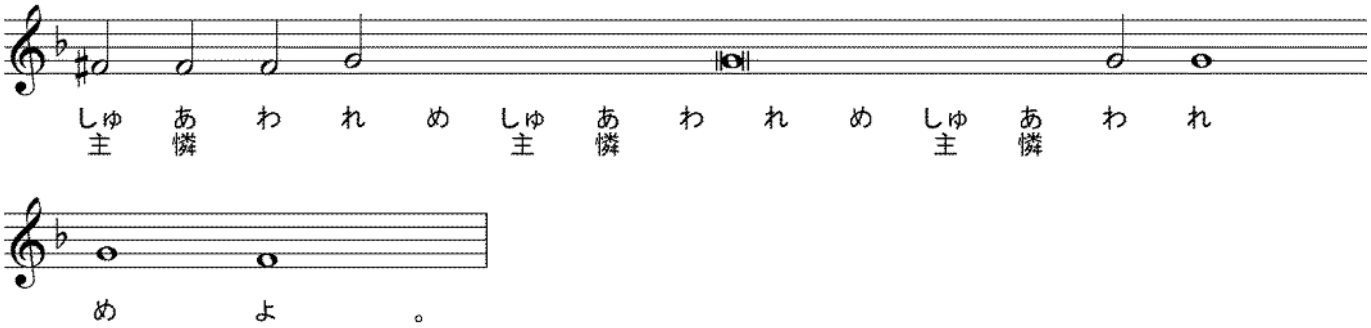


しゅあわれめ、しゅあわれめ、しゅあわれ　めよ　、ふくをくだ　せ　。
主憐　主憐　主憐　福　降

司祭）ハリストス我等の眞の神は、其至淨なる母の祈禱と、生命を施す尊き十字架の力と、光榮にして讃美たる聖使徒、（　　）、聖にして義なる神の祖父母イォアキム及びアンナ及び諸聖人の祈禱に因りて我等を憐み救わん、彼は善にして人を愛する主なればなり、

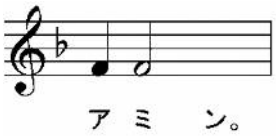


ア　ミ　ン。



【　晩課　】

司祭）父と子と聖神の國は崇め讃めらる、今も何時も世世に、



誦經）來れ、我等の王・神に叩拜せん。

來れ、ハリストス・我等の王・神に叩拜俯伏せん。

來れ、ハリストス・我等の王と神の前に叩拜俯伏せん。

【　第１０３聖詠　】

我が靈よ、主を讃め揚げよ、主我が神よ、爾は至りて大なり、爾は光榮と威嚴とを被れり。爾は光を袍の如くに衣、天を幔の如くに張る、水の上に爾の宮を建て、雲を爾の車と爲し、風の翼にて行く。爾は風を以て爾の使者と爲し、焔を以て爾の役者と爲す。爾は地を固き基に建てたり、此れ世世に動かざらん。爾は淵を以て衣服の如くに之を覆えり、山の嶺に水立つ。爾の恐嚇に依りて此れは奔り、爾の雷の聲に由りて速に去る。山に升り、澗に降り、爾の此れが爲に定めし處に至る。爾界を立てて之を踰えざらしむ、反りて地を覆わざらん。爾は泉を澗に遣せり、山の間に水は流れ、野の諸の獸に飲ましむ、野の驢は其渇を止む。空の鳥は其傍に棲み、枝の間より聲を出す。爾は上なる宮より山を潤し、地は爾の造工の果にて饜き足れり。爾は草を獸の爲に生ぜしめ、野菜を人の需の爲に生ぜしめて、地より食物を出さしむ。酒は人の心を樂ませ、膏は其面を澤し、餅は人の心を養う。主の樹、其植えたるリバンの栢香木は饜

き足れり、鳥は其上に巣を造る、松は鶴の棲處たり、高き山は鹿の爲、磐石は兎の爲に避所たり。主は月を造りて時を定め、日は其入る處を知る。爾暗を布けば、則夜あり、其時林の獣皆出で廻る、獅は獲物の爲に吼えて、其食を神に乞う。日出づれば、彼等集りて己の穴に伏す。人は其工作の爲に出で、勞きて暮に至る。主よ、爾の工業は何ぞ多き、皆智慧を以て作れり、地は爾の造物にて滿ちたり。夫の大にして廣き海、彼處には無數の動物、大小の生物あり、彼處には舟通い、彼處には彼の大魚あり、爾造りて其中に遊ばしむ。彼等は皆爾が時に随いて食を予うるを待つ。之に予うれば受け、爾の手を開けば賜に饜かさる、爾の顔を隠せば惶れ惑い、其氣を取り上ぐれば死して塵に歸る。爾の氣を施せば造られ、爾は又地の面を新にす。願くは光榮は世世に主に在らん、願くは主は己の造工の爲に樂まん。彼地を觀れば、地震い、山に觸るれば、煙起つ。我生ける中主に歌い、世を終るまで我が神に歌わん。願くは我が歌は彼に悦ばれん、我主の爲に樂まん。願くは罪人等は地より消え、不法の者は存するなけん。我が靈よ、主を讃め揚げよ。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、アミン。

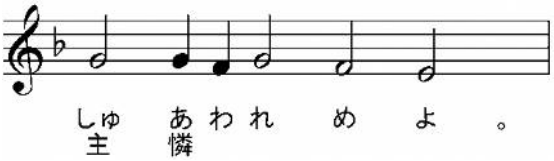
アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神よ光榮は爾に歸す。

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神よ光榮は爾に歸す。

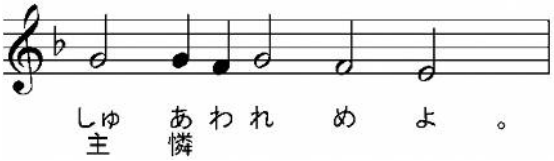
アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神よ光榮は爾に歸す。

【 大聯禱 】

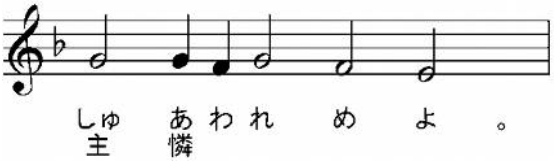
司祭）我等安和にして主に禱らん、



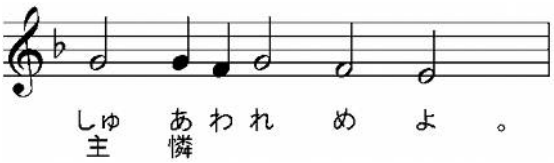
司祭）上より降る安和と我等が靈の救の爲に主に禱らん、



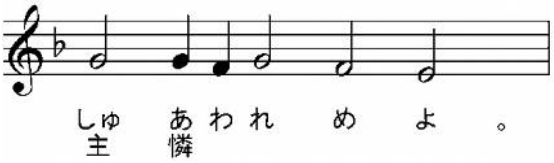
司祭）全世界の安和、神の聖なる諸教會の堅立、及び衆人の合一の爲に主に禱らん、



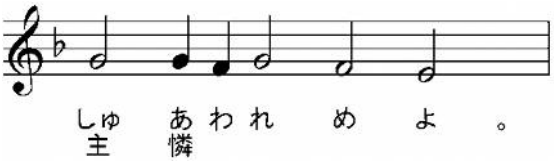
司祭）此の聖堂、及び信と 愼 と神を畏るる心とを以て此に來る者の爲に主に禱らん、



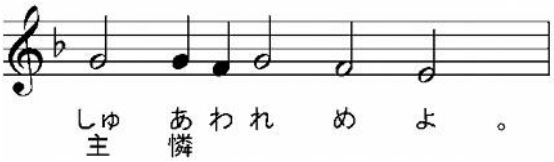
司祭）教會を司る尊貴なる我等の全日本の府主教ダニイル、尊貴なる我等の仙台の大主教セラフィム、司祭の尊品、ハリストスに因る輔祭職、悉くの教衆、及び衆人の爲に主に禱らん、



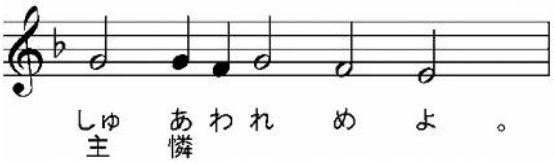
司祭）我國の天皇、及び國を司る者の爲に主に禱らん、



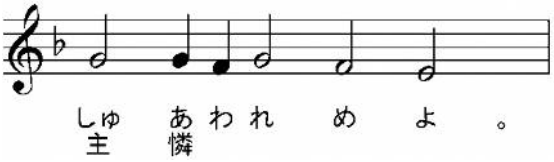
司祭）此の都邑と凡の都邑と地方の爲、及び信を以て此の中に居る者の爲に主に禱らん、



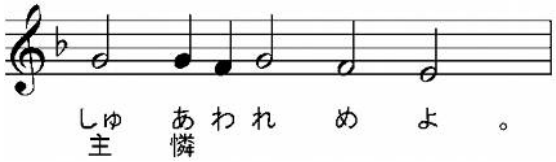
司祭）氣候順和、五穀豐穰、天下泰平の爲に主に禱らん、



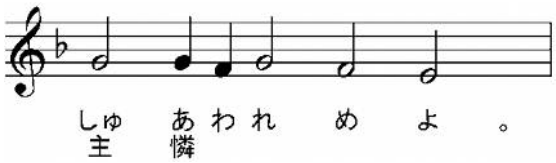
司祭）航海する者、旅行する者、病を患うる者、艱難に遭う者、擄となりし者、及び彼等の救の爲に主に禱らん、



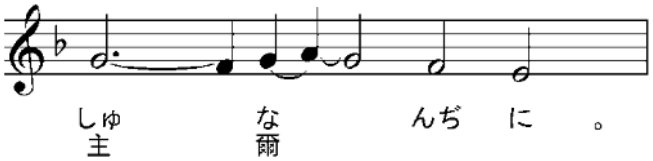
司祭）我等諸の憂愁と忿怒と危難とを免るるが爲に主に禱らん、



司祭) 神よ、爾の恩寵を以て、我等を佑け救い憐み護れよ、

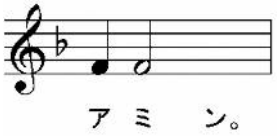


司祭) 至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光栄の女宰、生神女、永貞童女マリヤと、諸聖人を記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、



司祭) (黙誦 : 洪恩にして慈憐、寛忍にして至仁なる主よ、我等の禱を聽き、我等が願の聲を納れ、恩の徴を我等に顯し、我等を爾の途に導きて、爾の眞理に行かしめ給え、我等の心を樂ましめて、爾の聖なる名を畏るるを致させ給え、蓋 爾は大にして奇蹟を行う者なり、爾は獨神なり、主よ、諸神の中爾に如く者なし、爾は慈憐にして有力、勇毅にして至善なり、凡そ爾の聖なる名を恃む者を助け、之を慰め之を救うを致す、)

蓋、凡そ光榮・尊貴・伏拜は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、



【 第１８カフィズマ 】

【 第１１９聖詠 】

誦經) 我我が憂の中に主を呼びしに、彼我に聽き給えり。主よ、我が靈を詭詐の口、欺騙の舌より免れしめ給え。欺騙の舌は何を以て爾に予え、何を以て爾に加えんか、勇者の鋭き箭なり、金雀枝の熱炭なり。哀い哉、我モソフに寓り、キダルの幕の旁に住む。我が

靈は和睦を疾む者と偕に久しく住めり。我和を好む、然れども我言を出せば、彼等戰を興す。

【 第１２０聖詠 】

我目を擧げて山を望む、我が助は彼處より來らん。我が助は天地を造りし主より來る。彼は爾の足に躓くを許さざらん、爾を守る者は眠らざらん。イズライリを守る者は眠らず、寢ねず。主は爾を守る者なり、主は爾の右の手の庇蔭なり。晝に日は爾を傷めざらん、夜に月も亦然り。主は爾を諸の禍より守らん、主は爾の出入を守りて世世に至らん。

【 第１２１聖詠 】

人我に向いて、我等主の家に往かんと云う時、我喜べり。イェルサリムよ、我等の足は爾の門の内に立てり。イェルサリムは稠密の城邑の如くに築かれ、諸支派即主の支派がイズライリの法に遵いて、上りて主の名を讃榮する處なり。彼處に審判の寶座、ダヴィドの家の寶座は立つ。イェルサリムの爲に平安を求めよ、願わくは爾を愛する者は安寧を得ん。願わくは爾の城の中は平安、爾の宮の中は安寧ならん。我は我が兄弟、我が隣の爲に云う、爾平安なれ。主我が神の家の爲に我爾に福を願う。

【 第１２２聖詠 】

天に居る者よ、我目を擧げて爾を望む。視よ、僕の目主人の手を望み、婢の目主婦の手を望むが如く、我等の目は主我が神を望みて、其我等を憐むを俟つ。主よ、我等を憐み、我等を憐み給え、蓋我等は侮に饜き足れり。我等の靈は驕る者の辱と誇る者の侮とに饜き足れり。

【 第１２３聖詠 】

イズライリ云うべし、若し主我等と偕にあらず、人人起ちて我等を攻めし時、若し我等と偕にあらざりしならば、彼等が我等に於ける怒は燃えて、彼等は我等を生きながら呑みしならん、水は我等を沈め、流は我等の靈の上を過ぎ、暴れたる水は我等の靈の上を過ぎしならん。我

等を畀えて其歯の獲物となさざりし主は崇め讃めらる。我等の 靈 は脱れしこと、鳥が捕うる者の羅を脱るるが如し、羅裂かれて我等脱れたり。我等の扶助は天地を造りし主の名に在り。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、アミン。

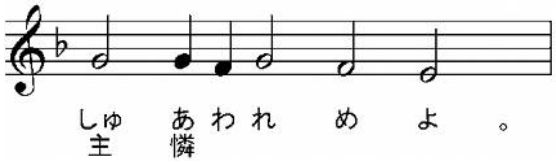
アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神よ光榮は爾に歸す、

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神よ光榮は爾に歸す、

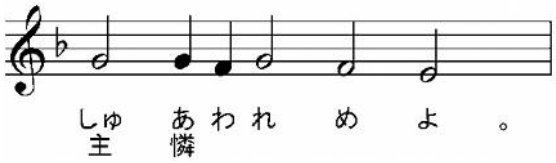
アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神よ光榮は爾に歸す、

【 小聯禱 】

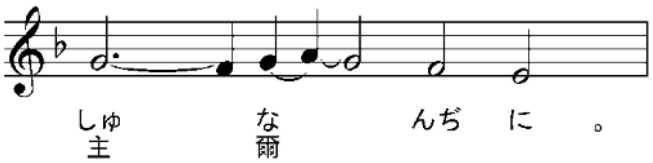
司祭) 我等復又安和にして主に禱らん、



司祭) 神よ、爾の恩寵を以て、我等を佑け救い憐み護れよ、

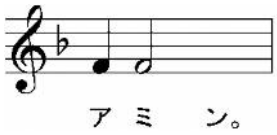


司祭) 至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光栄の女宰、生神女、永貞童女マリヤと、諸聖人を記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、



司祭) (黙誦: 主よ、爾の憤を以て我等を責むる勿れ、爾の怒を以て我等を罰する勿れ、我等の靈の醫師と治療者よ、爾の憐に依りて我等に行い給え、我等を導きて爾が旨の埠に至らしめ、我等が心の眼を明かにして爾の眞理を識らしめ、並に我等に此の日の終と我等の生涯とを平安無罪にして度らしめ給え、聖なる生神女と諸聖人の祈禱に依りてなり、)

蓋權柄及び國と權能と光榮は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、



【　第１２４聖詠　】

誦經）主を頼む者はシオン山の如く動かずして永く存す。諸山はイエルサリムを環り、主は其民を環りて今より世世に迄らん。蓋主は惡者の杖に、義者の業の上にあるを許さざらん、義者が其手を不法に伸べざらん爲なり。主よ、恩を善人と心の直き者とに施し給え、己の曲徑に轉ずる者に至りては、願わくは主は彼等に不法を行う者と偕に行くを許さん。願わくは平安はイズライリに歸せん。

【　第１２５聖詠　】

主がシオンの擄を返しし時、我等夢見るが如くなりき、其時我等の口は樂にて盈ち、我等の舌は歌に満ちたり、其時諸民の中に云えるありき、主は彼等に大なる事を行えりと。主は我等に大なる事を行えり、我等喜べり。主よ、我等の擄を南方の流の如くに返し給え。涙を以て播く者は、喜を以て穫らん。泣きて種を攜うる者は歡びて其禾束を攜えて歸らん。

【　第１２６聖詠　】

若し主家を造らずば、造る者徒に勞し、若し主城を守らずば、守る者徒に儆醒す。爾等徒に夙に興き、遅く寝ね、憂の餅を食う、時に彼は其愛する者に寝ぬるを賜う。視よ、主が與うる所の業は諸子なり、其褒賞は腹の果なり。少壮の諸子は、勇者の手にある箭の如し。此を其箙に充てたる者は福なり、彼等門の内に在りて敵と共に言う時、羞を得ざらん。

【　第１２７聖詠　】

凡そ主を畏れて、其途を行く者は福なり。爾は己が手の勞に依りて食わん、爾は福なり、爾は善を得たり。爾の妻は爾の家に在りて、實繁き葡萄の樹の如く、爾の諸子は爾の席を環りて、橄欖の枝の如し、主を畏るる者は此くの如く降福せられん。主はシオ

ンより 爾 に降 福せん、爾 在 世の諸 日イェルサリムの安 寧を視ん、爾 は 己 が子の子を見ん。願わくは平 安はイズライリに歸せん。

【 第１２８聖詠 】

イズライリ云うべし、我が 幼 き時より彼等多く我を攻め、我が 幼 き時より多く我を攻めたれども、我に勝たざりき。耕 す者は我が背に 耕 し、其 畝 を長くせり。然れども主は義なり、彼は惡 者の 縛 を断てり。願わくはシオンを疾む者は皆 羞 を 被 りて 退 けられん。願わくは彼等は屋の上の草、抜かれざる先に枯るる者の如くならん、刈る者は之を以て其手に盈てず、束ぬる者は其 握 に盈てざらん、過ぐる者は、主の降 福は 爾 等に歸すべし、我等主の名を以て 爾 等を祝 福 すと云わざらん。

光 榮は父と子と聖 神に歸す、今も何時も世世に、アミン。

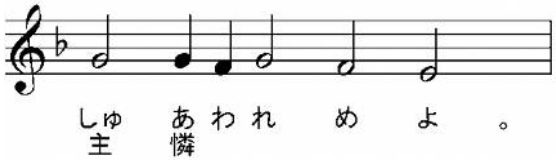
アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神よ光 榮は 爾 に歸す、

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神よ光 榮は 爾 に歸す、

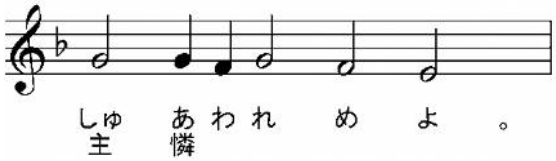
アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神よ光 榮は 爾 に歸す、

【 小聯禱 】

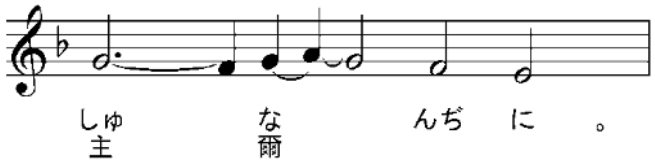
司祭) 我等復 又安和にして主に禱らん、



司祭) 神よ、 爾 の恩 寵 を以て、我等を佑け救い 憐 み護れよ、

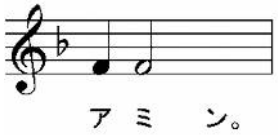


司祭) 至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光 栄の女 宰、生 神 女、永 貞 童 女マリヤと、諸 聖 人を記憶して、我等 己 の身及び 互 に 各 の身を以て、 並 に 悉 くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、



司祭）（ 黙誦：主我が神よ、我等が 爾 の聖にして拜まるる名を籲ぶ時、我等 爾 の罪なる不當の僕を記憶して、我等 爾 の慈憐を恃む者を 辱 むる勿れ、主よ、 乃 我等に凡そ求むる所 、救 の爲に切要なる者を賜い、並 に我等に、心 を盡して 爾 を愛し、爾 を畏れ、及び萬事に於て 爾 の旨を 行 うを得せしめ給え、 ）

蓋 爾 は善にして人を愛する神なり、我等光 榮を 爾 父と子と聖 神に獻ず、今も何時も世世に、



【 第１２９聖詠 】

誦經）主よ、我 深き 處 より 爾 に呼ぶ。主よ、我が聲を聽き給え、願わくは 爾 の耳は我が 禱 の聲を聽き納れん。主よ、若し 爾 不法を糺さば、主よ、孰か能く立たん。然れども 爾 に 赦 あり、人の 爾 の前に 敬 まん爲なり。我 主を望み、我が 靈 主を望み、我 彼の 言 を恃む。我が 靈 主を待つこと、番 人の旦を待ち、番 人の旦を待つより 甚 し。願わくはイズライリは主を恃まん、 蓋 憐 は主にあり、 大 なる 贖 も彼にあり、彼はイズライリを其 悉 くの不法より 贖 わん。

【 第１３０聖詠 】

主よ、我が 心 驕らず、我が目高ぶらず、我 大 にして我が及ぶ能わざる事に入らざりき。我豈に我が 靈 を鎮め、之を安んずること、母の乳を斷ちし兒の如くせざりしか、我が 靈 我の衷に於て乳を斷ちし兒の如くなりき。願わくはイズライリは主を恃みて今より世世に迄らん。

【 第１３１聖詠 】

主よ、ダヴィドと其 悉 くの 憂 とを記憶せよ。彼 主に誓い、イァコフの有 能 者に約して云えり、我我が家の幕に入らず、我が榻に登らず、我が目に寐ね、我が 瞼 に眠るを容るさずして、主

の爲に處所を得、イァコフの有能者の爲に住所を得るに及ばんと。視よ、我等之をエフラサに聞き、之にイァリムの田に遇えり、往きて彼の住所に就き、彼の足凳に叩拜せん。主よ、爾及び爾が能力の匱は爾が安息の所に立てよ。爾の司祭等は義を衣、爾の諸聖者は悦ばん。爾の僕ダヴィドの爲に、爾が膏つけられし者の面を轉ずる毋れ。主は眞實を以てダヴィドに誓いて、之に背かざらん、曰く我爾が腹の果を以て爾の寶座に坐せしめん。若し爾の諸子我が約と、我が彼等に誨えんとする啓示とを守らば、彼等の諸子も亦永く爾の寶座に坐せん。蓋主はシオンを擇び、此を以て其住所とするを望めり、曰く、此れ我が世世の安居なり、我此に居らん、蓋我之を望めり。我其糧を祝福し祝福せん、餅を以て其貧しき者を饜かしめん。我救を以て其司祭等に衣せん、其諸聖者は喜び悦ばん。我彼處に於てダヴィドに角を長ぜしめ、我が膏つけられし者の爲に燈を立てん。我其敵に恥を衣せん、其冕は其の上に耀かん。

【 第１３２聖詠 】

兄弟睦しく居るは、善なる哉、美なる哉。是れ寶なる膏が首にありて、髯即アァロンの髯に流れ、其衣の裾に流るるが如く、エルモンの露のシオン山に降るが如し。蓋彼處に於て主は降福と永生とを命じたり。

【 第１３３聖詠 】

主の諸僕、夜中主の家、我が神の家の庭に立つ者よ、今主を崇め讃めよ。爾の手を擧げ、聖所に向いて主を崇め讃めよ。天地を造りし主はシオンより爾に降福せん。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、アミン。

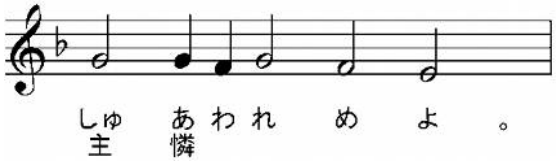
アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神よ光榮は爾に歸す、

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神よ光榮は爾に歸す、

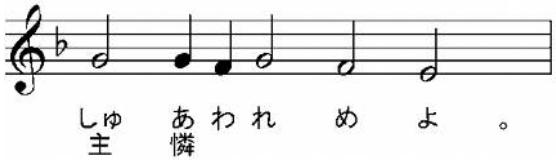
アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神よ光榮は爾に歸す、

【 小聯禱 】

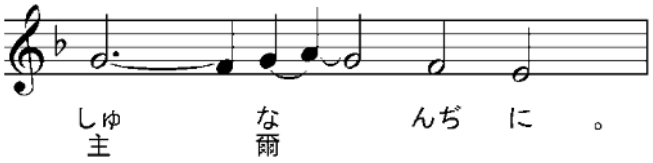
司祭）我等復又安和にして主に禱らん、



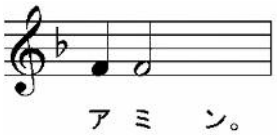
司祭) 神よ、爾の恩寵を以て、我等を佑け救い憐み護れよ、



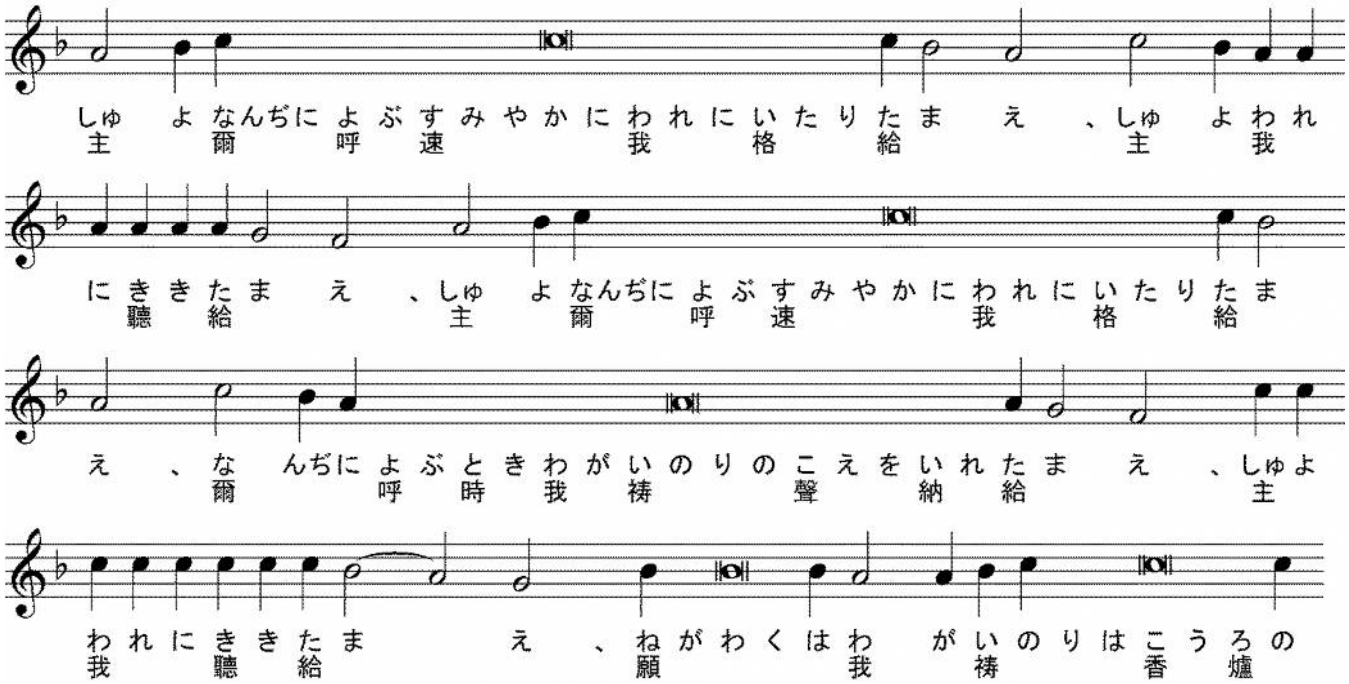
司祭) 至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光栄の女宰、生神女、永貞童女マリヤと、諸聖人を記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、

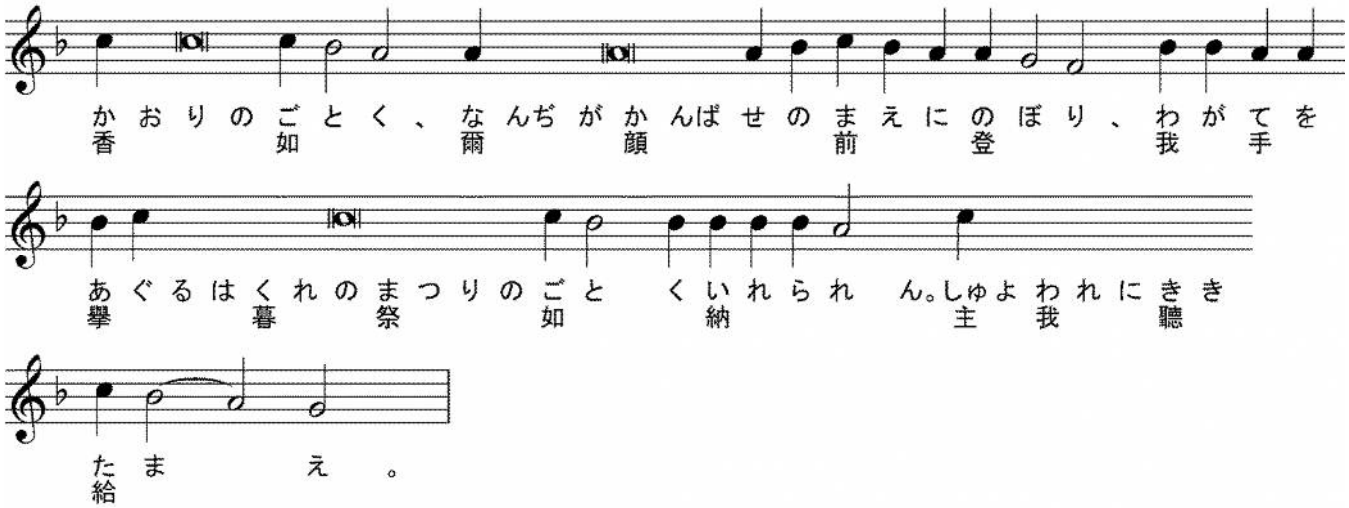


司祭) 蓋爾は我等の神、慈憐と拯救との神なり、我等光榮を爾父と子と聖神に獻ず、今も何時も世世に、



【 第１４０聖詠 第7調 】





誦經）主よ、我が口に衛を置き、我が唇の門を扞ぎ給え、我が心に邪なる言に傾きて、不法を行う人と共に、罪の推諉せしむる毋れ、願わくは我は彼等の甘味を嘗めざらん。義人は我を罰すべし、是れ矜恤なり、我を譴むべし、是れ極と美しき膏、我が首を悩ます能わざる者なり、唯我が禱は彼等の惡事に敵す。彼等の首長は巖石の間に散じ、我が言の柔和なるを聽く。我等を土の如く斫り碎き、我が骨は地獄の口に散りて落つ。主よ、主よ、唯我が目は爾を仰ぎ、我爾を恃む、我が靈を退くる毋れ。我が爲に設けられし弶、不法者の網より我を護り給え。不虔者は己の網に罹り、唯我は過ぐるを得ん。

【 第１４１聖詠 】

我が聲を以て主に呼び、我が聲を以て主に禱り、我が禱を其前に注ぎ、我が憂を其前に顯せり。我が靈の衷に弱りし時、爾は我の途を知れり、我が行く路に於て、彼等は竊に我が爲に網を設けたり。我右に目を注ぐに、一人も我を認むる者なし、我に遁るる所なく、我が靈を顧る者なし。主よ、我爾に呼びて云えり、爾は我の避所なり、生ける者の地に於いて我の分なり。我が呼ぶを聽き給え、我甚弱りたればなり、我を迫害する者より救い給え、彼等は我より強ければなり。我が靈を獄より引き出して、我に爾の名を讃榮せしめ給え。爾恩を我に賜わん時、義人は我を環らん。

⑥主よ、若し爾不法を糺さば、主よ、孰か能く立たん。然れども爾に赦あり、人の爾の前に敬まん爲なり。

ハリストスよ、我は吾が 靈 の 尊 きを諸 慾に服せしめて、家畜の如くになれり。目を擧げて 爾 至 上 者を仰ぐを得ずして、下に俯し、税吏の如く祈りて 爾 に呼ぶ、神よ、我を潔め我を救い給え。

⑤我 主を望み、我が 靈 主を望み、我 彼の 言 を恃む。

ハリストスよ、我は吾が 靈 の 尊 きを諸 慾に服せしめて、家畜の如くになれり。目を擧げて 爾 至 上 者を仰ぐを得ずして、下に俯し、税吏の如く祈りて 爾 に呼ぶ、神よ、我を潔め我を救い給え。

④我が 靈 主を待つこと、番 人の旦を待ち、番 人の旦を待つより 甚 し。

致命 者は無神の幽 暗を逐いて、 衆 人に神智の 光 を示し給えり。

③願わくはイズライリは主を恃まん、 蓋 憐 は主にあり、 大 なる 贖 も彼にあり、彼はイズライリを其 悉 くの不法より 贖 わん。

救 世 主よ、全世界を審 判せん爲に來る時、我恥づべき行爲を 行 いし者を辱かしむる勿れ。

②萬 民よ、主を讃め揚げよ、萬 族よ、彼を崇め讃めよ、

ハリストス神よ、光 榮は 爾 に歸す、 爾 は使徒の 譽 、致命 者の 悦 なり。彼等の 教 は 一 體の三 者なり。

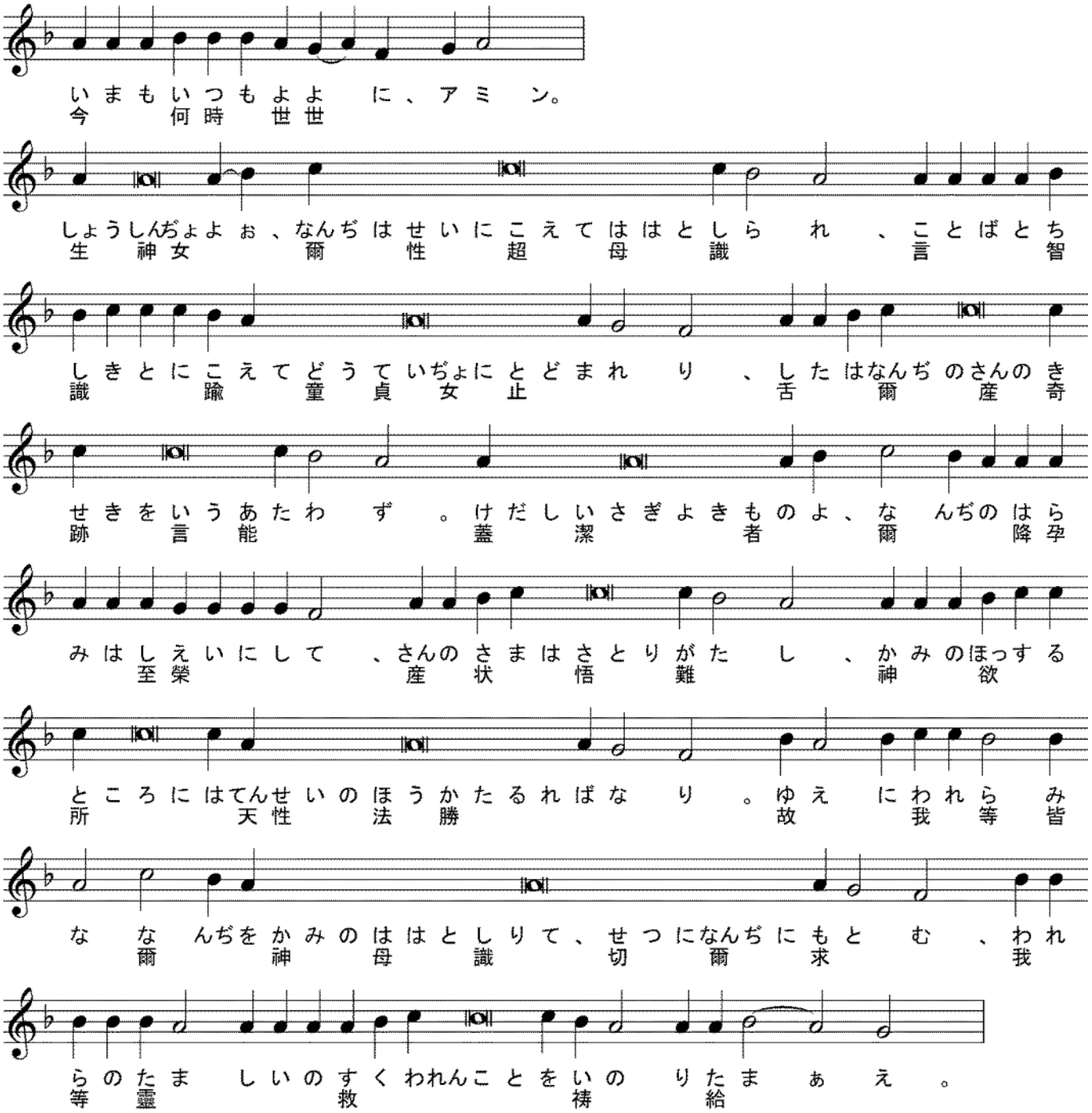
① 蓋 彼が我等に 施 す 憐 は 大 なり、主の眞 實は永く存す。

聖なる致命 者、善く難を受けて榮 冠を 冠 りし者よ、我等の 靈 の救われんことを主に祈り給え。

光 榮は父と子と聖 神に歸す、

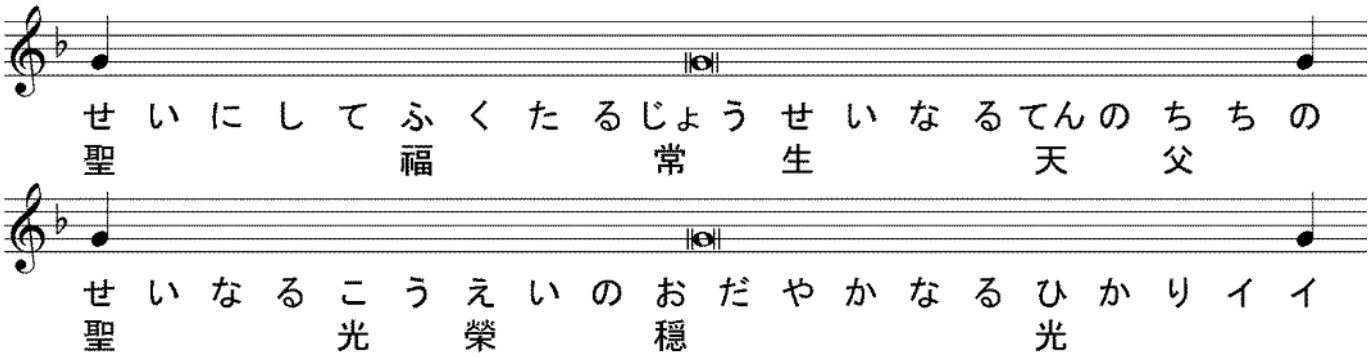
我が 救 世 主、 生 を 施 す主よ、 爾 が暫時の生命より移しし我等の兄 弟を 安 ぜしめ給え、 蓋 彼等呼ぶ、主よ、光榮は 爾 に歸す。

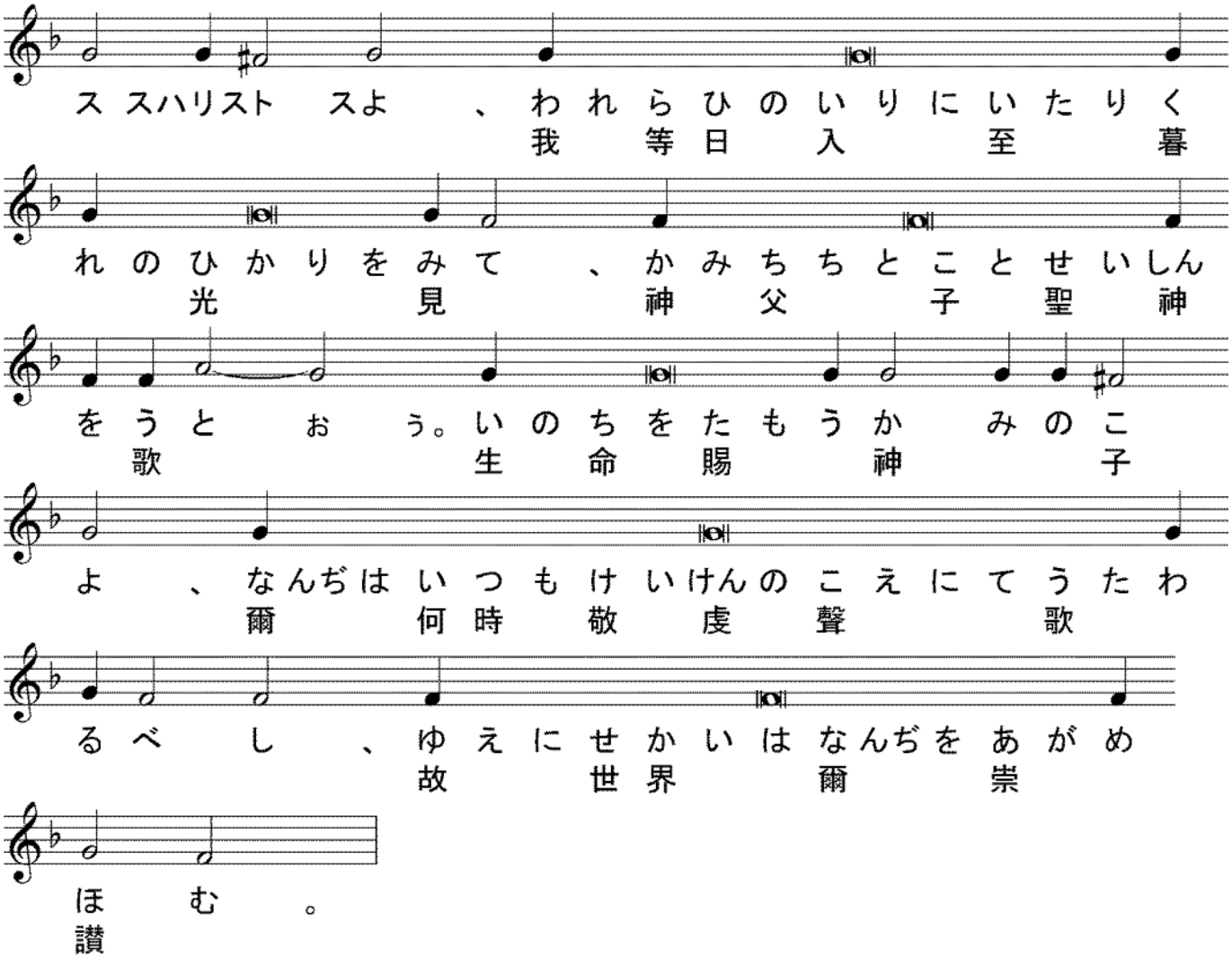
【 生神女讃詞 第７調 】



司祭）睿智（えいち）、 粛（つつし） みて立（た）て、

【　聖ソフロニイの祝文　】

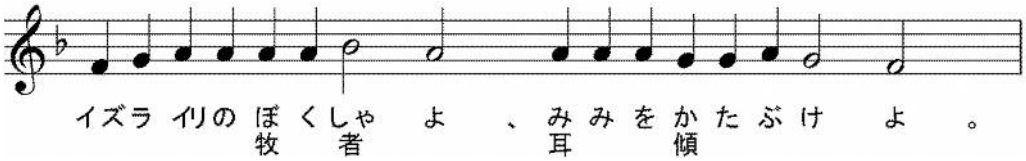




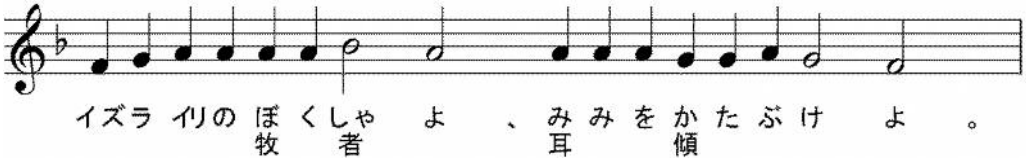
【 提綱（プロキメン） 第７９聖詠 第４調 】

司祭） 謹（つつし）みて聽（き）くべし、衆人（しゅうじん）に平安（へいあん）、睿智（えいち）、謹（つつし）みて聽（き）くべし。

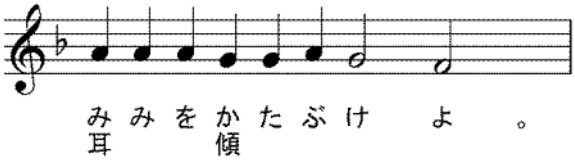
誦經） 提綱（プロキメン）、第四（だいし）の調（しらべ）、イズライリの牧者（ぼくしゃ）よ、耳（みみ）を傾（かたぶ）けよ。



誦經） イオシフを羊（ひつじ）の如（ごと）く導（みちびく）者（もの）、ヘルヴィムに坐（ざ）する者（もの）よ、己（おのれ）を顯（あらわ）せ。



誦經） イズライリの牧者（ぼくしゃ）よ、



【　創世記　第１２章　】

司祭）睿智、

誦經）創世記の讀、

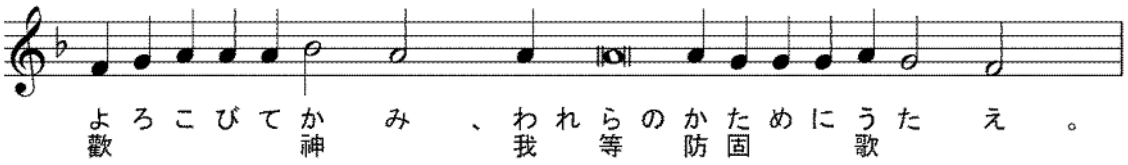
司祭）謹みて聽くべし、

誦經）主はアヴラムに謂えり、爾の地より、爾の親族より、爾の父の家より出でて、我が爾に示さんとする地に往け、我爾より大なる民を出し、爾を祝し、爾の名を大にせん、爾は祝福の基と爲らん、我は爾を祝する者を祝し、爾を詛う者を詛わん、爾に因りて地の萬族は祝福を獲ん。アヴラムは主の彼に言いし所に從いて出でたり、ロトも彼と偕に行けり。アヴラムはハルランの地を出でし時七十五歳なりき。アヴラムは其妻サラ、其兄の子ロト、及び其集めたる總ての所有と、ハルランにて獲たる人衆とを攜えて、出でて、カナアンの地に往けり。アヴラムは其地を縦に經て、シケムの處に及び、高き橡の樹に至れり、其時カナアンの人其地に住めり。主はアヴラムに現れて曰えり、我斯の地を爾の裔に予えん。アヴラムは彼處に於て、彼に現れし主の爲に祭壇を築けり。

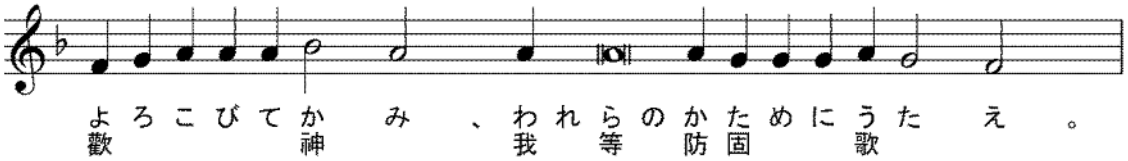
【　提綱　第８０聖詠　第４調　】

司祭）謹みて聽くべし、

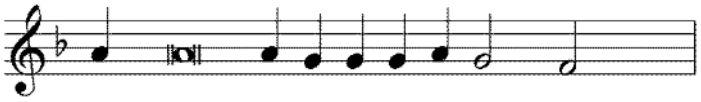
誦經）提綱、第四の調、歡びて神、我等の防固に歌え。



誦經）歌を執り、鼓と佳琴と瑟とを與えよ。



誦經）歡びて神、



司祭）睿智、肅みて立て、ハリストスの光は衆人を照らす。

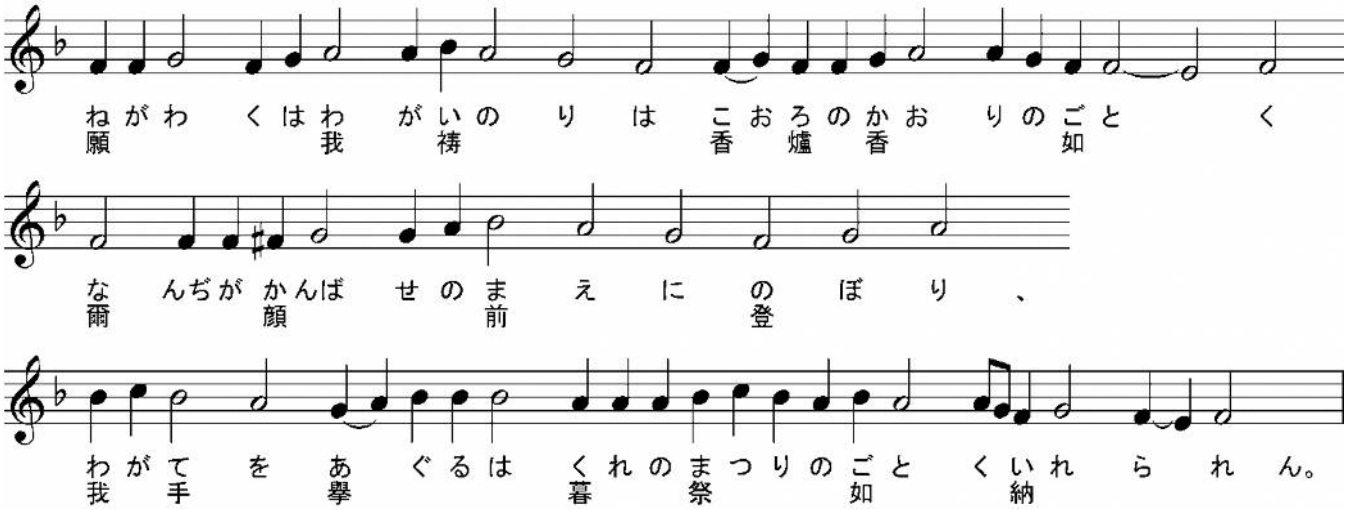
【 箴言 第１４章 】

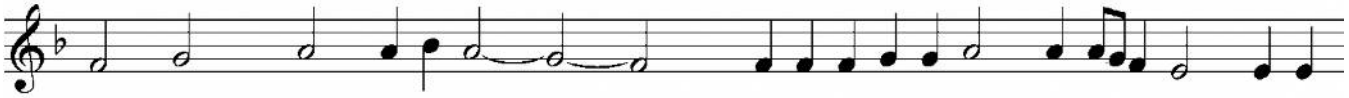
誦經）箴言の讀、

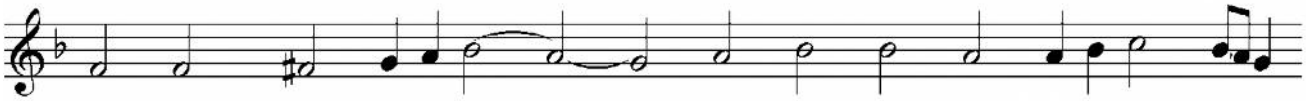
司祭）謹みて聽くべし、

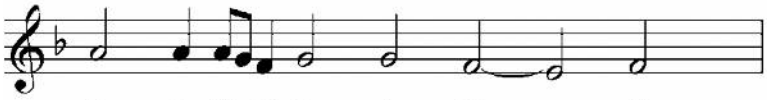
誦經）拙き者は凡の言を信じ、達き者は己の途を慎む。智者は懼れて惡を離れ、愚者は己を恃みて不法者と交る。怒り易き者は愚なることを行うを得、惟謀りて惡を行う人は惡まる。拙き者は無知を嗣業と爲し、達き者は知識を冕と爲す。惡者は善人の前に俯伏し、罪者は義人の門に俯伏せん。貧しき者は其隣にも惡まる、富める者には親友多し。其隣を藐る者は罪あり、貧しき者を憐む人は福なり。惡を謀る者は迷えるに非ずや、惡を行う者は慈憐と眞實とを知らず、唯善を謀る者には慈憐と眞實あり。凡の勞には益あり、唯多言には損あるのみ。智者の富は其冕なり、愚者の度生は禍なり。正しき證者は人の生命を救い、正しからざる者は譌を吐く。主を畏るる寅畏には堅き依頼あり、彼は其諸子の爲に避所なり。

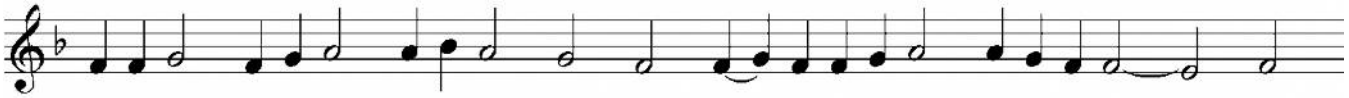
司祭）爾に平安、睿智、願わくは我が禱は香爐の香の如く爾が顔の前に登り、我が手を擧ぐるは暮の祭の如く納れられん。

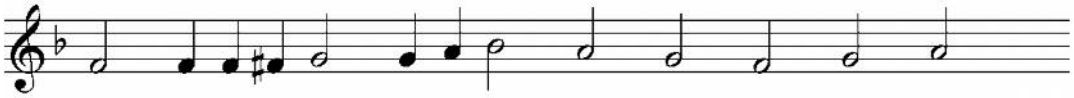


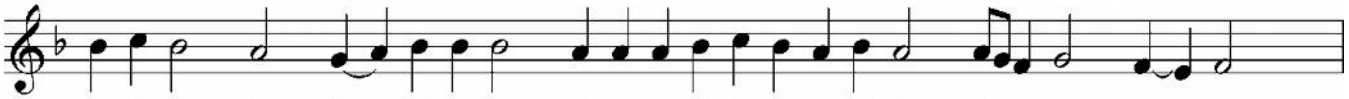

しゅよ なんぢによぶ、すみやかにわれにいたりた
主 爾 呼 速 我 至 給

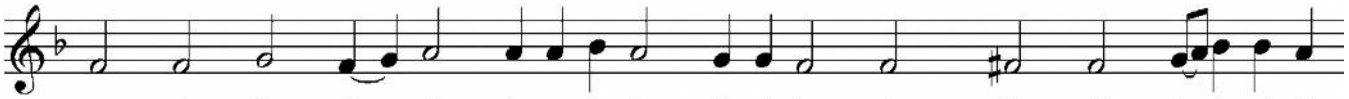

まえ。なんぢによぶときわがいのりの
爾 呼 時 我 祷

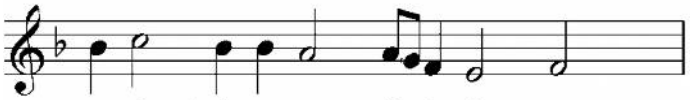

こえをいれたまえ。
聲 納 給

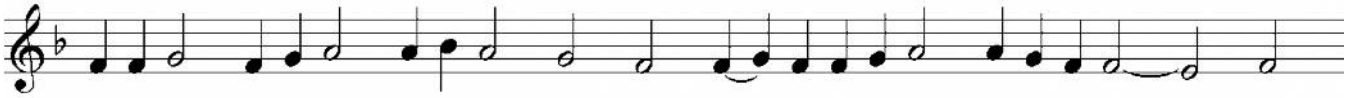

ねがわくはわがいのりはこおろのかおりのごとく
願 我 祷 香 爐 香 如

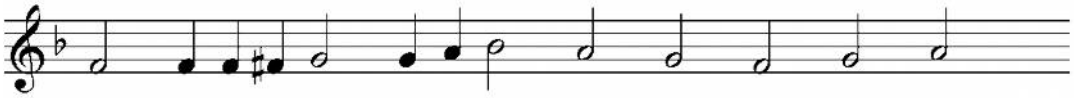

なんぢがかんばせのまえにのぼり、
爾 顔 前 登

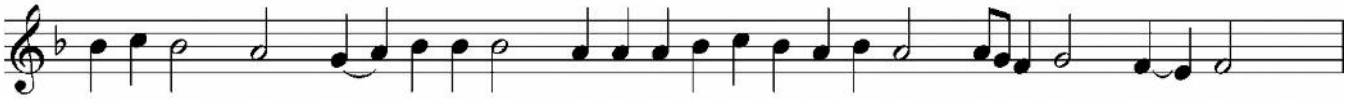

わがてをあぐるはくれのまつりのごとくいれられん。
我 手 擧 暮 祭 如 納

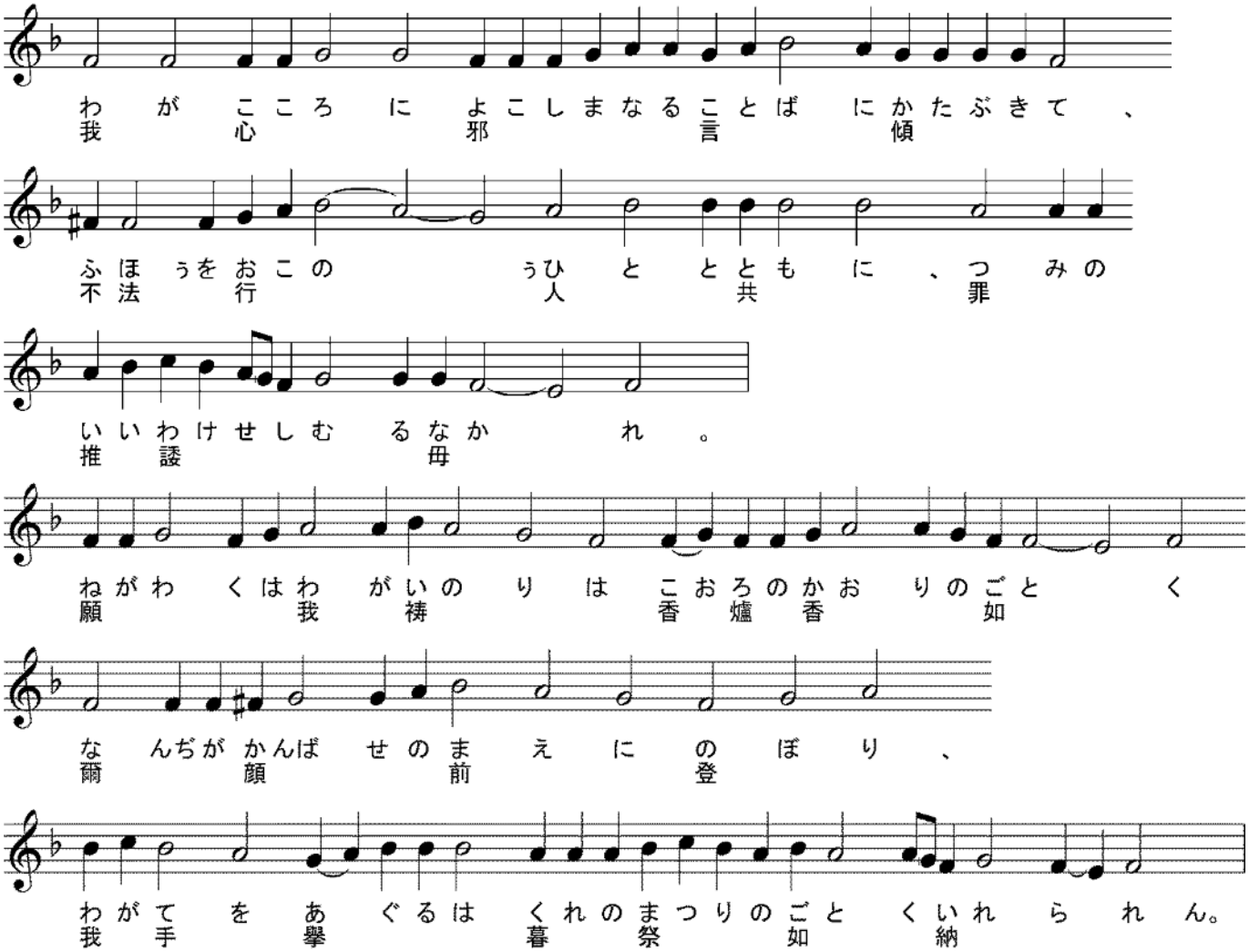

しゅよわがくちにまもりをおき、わがくちびる
主 我 口 衛 置 我 唇


のもんをふせぎたまえ。
門 扞 給

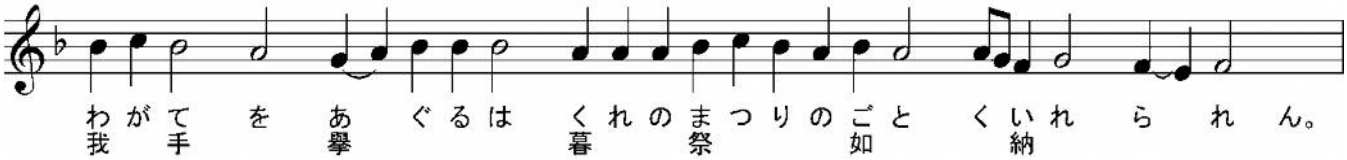

ねがわくはわがいのりはこおろのかおりのごとく
願 我 祷 香 爐 香 如


なんぢがかんばせのまえにのぼり、
爾 顔 前 登


わがてをあぐるはくれのまつりのごとくいれられん。
我 手 擧 暮 祭 如 納



司祭）願わくは我が禱は香爐の香の如く爾が顔の前に登り、



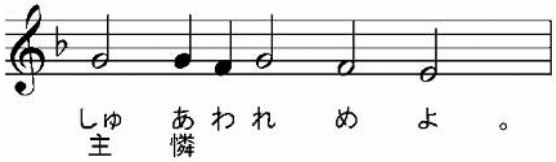
【　聖エフレムの祝文　】

司祭）主、我が生命の主宰よ、怠惰と愁悶と陵駕と空談の情を我に與うる勿れ、貞操と謙遜と忍耐と愛の情を我爾の僕に與え給え、嗚呼、主王よ、我に我が罪を見、我が兄弟を議せざるを賜え、蓋爾は世世に崇め讃めらる、アミン。

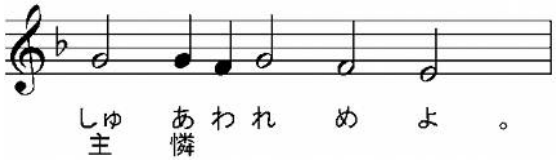
【　先備聖體禮儀　】

【　重聯禱　】

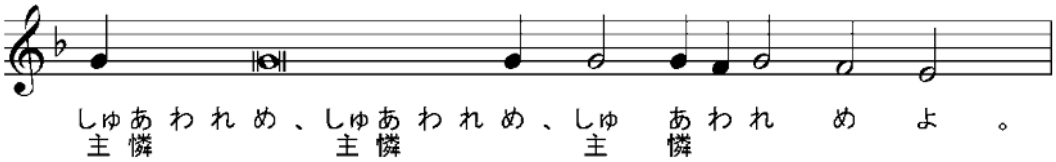
司祭）我等皆靈を全うして曰わん、我等の思を全うして曰わん、



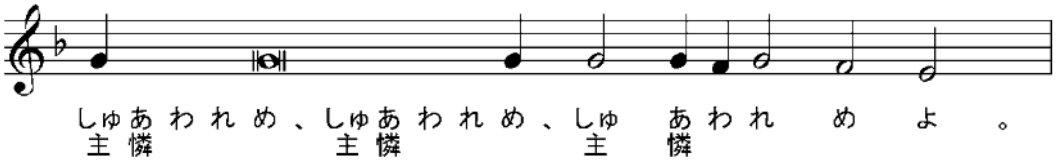
司祭）主、全能者、吾が列祖の神よ、爾に禱る、聆き納れて憐めよ、



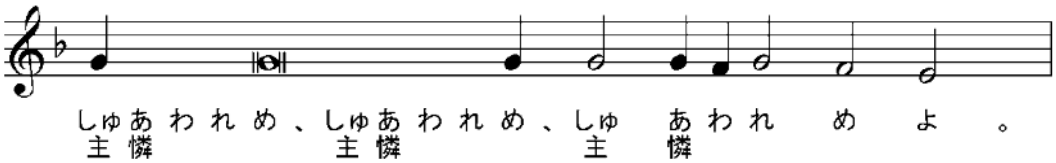
司祭）神よ、爾の大なる憐に因りて我等を憐めよ、爾に禱る、聆き納れて憐めよ、



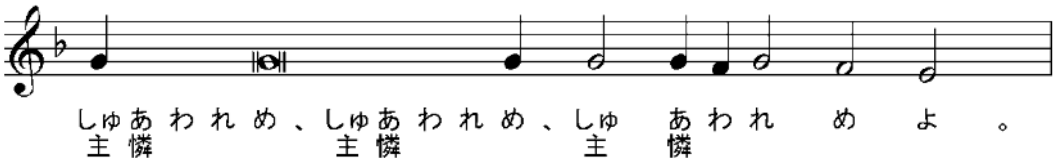
司祭）又我國の天皇及び國を司る者の爲に禱る、



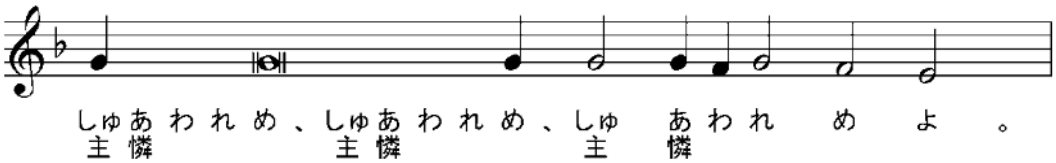
司祭）又教會を司る尊貴なる我等の全日本の府主教ダニイル、尊貴なる仙台の大主教セラフィム、及びハリストスに於ける悉くの我等の兄弟の爲に禱る、



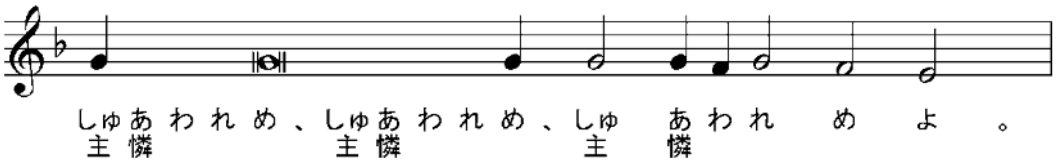
司祭）又我等の兄弟、諸司祭、諸修道司祭、及びハリストスに於ける我等の衆兄弟の爲に禱る、



司祭）又恒に記憶せらるる福たる至聖なる正教の総主教、敬虔の諸王、敬虔の諸后、此の聖堂の建立者、及び既に寝りし悉くの父祖兄弟、此の處と諸方とに葬られたる正教の者の爲に禱る、

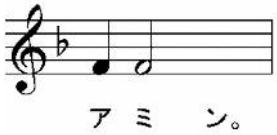


司祭）又此の至尊なる聖堂に物を獻り、善業を行い、之に勞し、之に歌い、及び此に立ちて爾の大にして豐なる憐を仰ぎ望む者の爲に禱る、



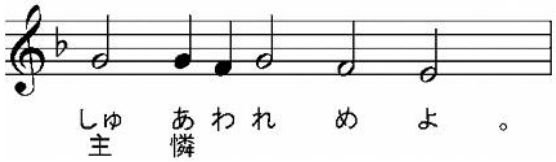
司祭）（ 默誦：主我が神よ、爾の諸僕より此の熱切の祈禱を受け、爾が憐の多きに因りて我等を憐み、爾の惠を我等と凡そ爾の豐なる憐を仰ぐ爾の民に遣し給え、）

蓋 爾は慈憐にして人を愛する神なり、我等光榮を爾父と子と聖神に獻ず、今も何時も世世に、

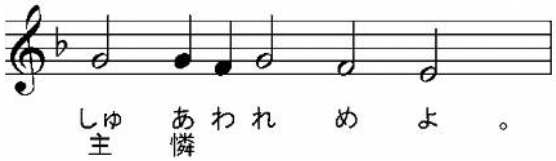


【 啓蒙者の聯禱 】

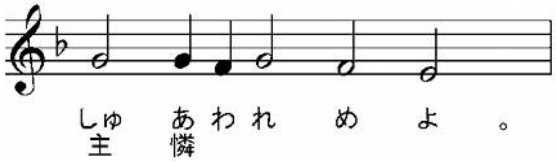
司祭）啓蒙者よ、主に禱るべし、



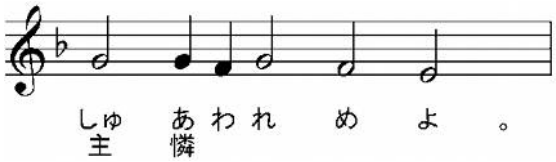
司祭）信者よ、啓蒙者の爲に禱らん、願くは主は彼等に憐を垂れん、



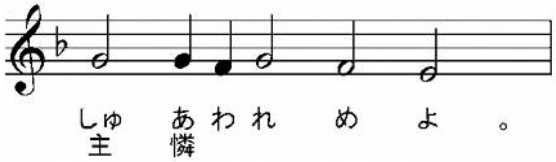
司祭）眞實の言を以て彼等を啓蒙せん、



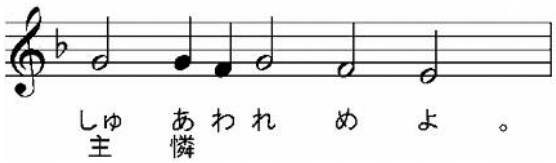
司祭）義の福音經を彼等に啓かん、



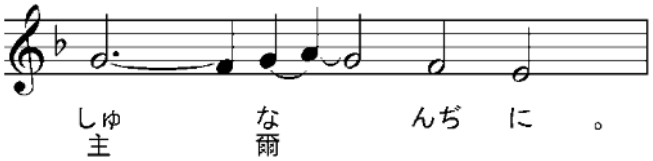
司祭）彼等を其聖・公・使徒の教會に一にせん、



司祭）神よ、爾の恩寵を以て、彼等を救い憐み佑け護れよ、

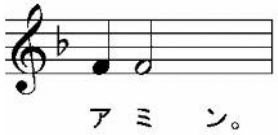


司祭）啓蒙者よ、爾等の首を主に屈めよ、



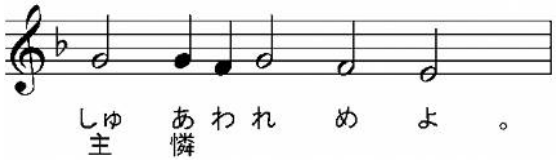
司祭）(黙誦：神我が神、萬物の造成者、衆人の救を獲て眞理を知るに至らんことを欲する主よ、爾の僕啓蒙者を顧み、彼等を舊時の迷と仇敵の惡謀より免れしめ、彼等を永生に召して其靈體を照し、彼等を爾の聖名を蒙る靈智なる爾の羊群に合せ給え、)

願くは彼等も我等と偕に、爾父と子と聖神の至尊至榮の名を讃揚せん、今も何時も世世に、

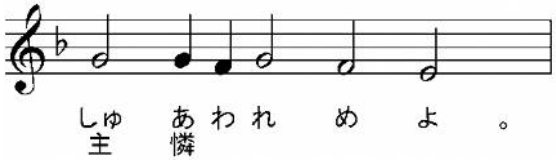


【 光照者の爲の聯禱 】

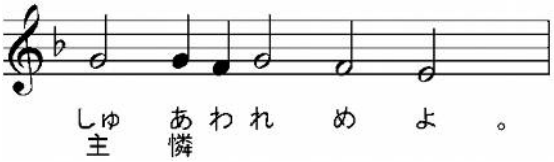
司祭）衆啓蒙者出でよ、啓蒙者出でよ、凡そ光照に備うる者出で來れ、光照に備うる者禱るべし、



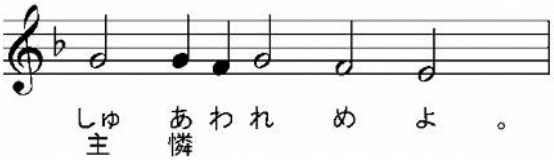
司祭）信者よ、聖なる光照に備うる兄弟、及び彼等の救の爲に主に禱らん、



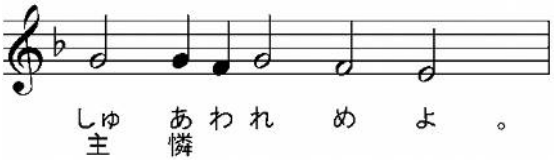
司祭）願くは主我が神は、彼等を堅固にし健立せん、



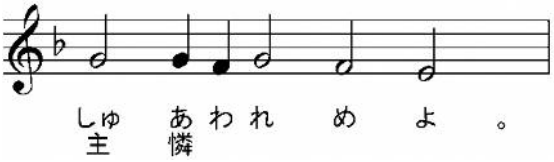
司祭）智慧と敬虔との光照を以て彼等を照さん、



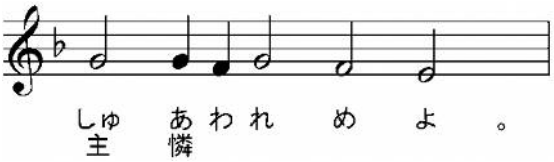
司祭）宜しき時に於て、彼等に復生の浴盤、諸罪の赦、不朽の衣を賜わん、



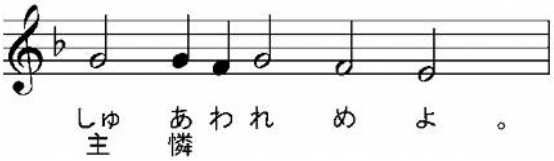
司祭）水と聖神を以て彼等を生まん、



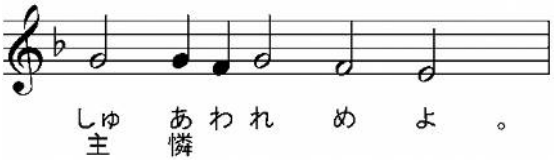
司祭）彼等に信の全きを賜わん、



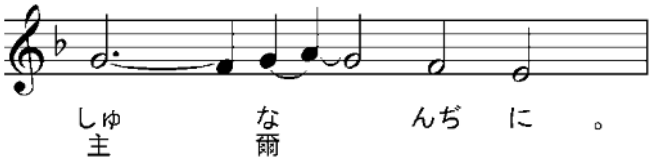
司祭）彼等を其選びたる聖なる群に合せん、



司祭）神よ、爾の恩寵を以て、彼等を救い憐み佑け護れよ、



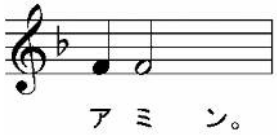
司祭）光照に備うる者よ、爾等の首を主に屈めよ、



司祭）（黙誦: 主宰よ、聖なる光照に備えて罪の汚を棄てんと欲する者に爾の顔を現し、

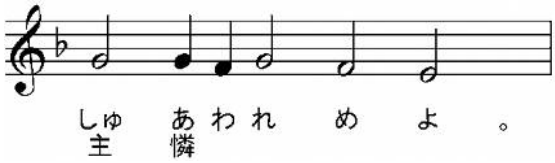
彼等の念を照し、彼等を信に篤うし、望に固うし、愛に完うし、己を捨てて我が靈の贖となりし爾がハリストスの尊き肢として顯し給え、)

蓋爾は我等の光照なり、我等光榮を爾父と子と聖神に獻ず、今も何時も世世に、

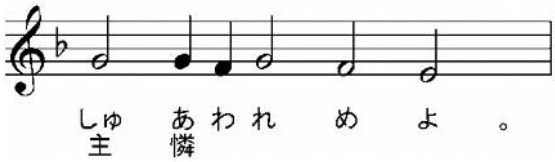


【 信者の聯禱 】

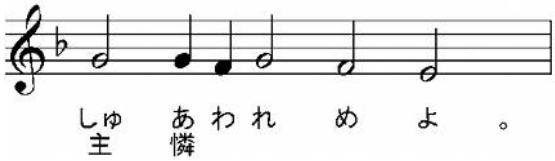
司祭) **凡そ光照に備うる者出でよ、光照に備うる者出でよ、衆啓蒙者出でよ、啓蒙者一人もなく、唯信者復又安和にして主に禱らん、**



司祭) **衆啓蒙者出でよ、啓蒙者出でよ、衆啓蒙者出でよ、啓蒙者一人もなく、唯信者復又安和にして主に禱らん、**



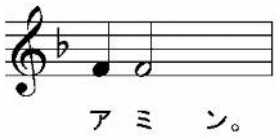
司祭) **神よ、爾の恩寵を以て、我等を佑け救い憐み護れよ、**



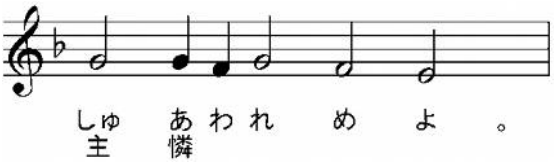
司祭) **睿智、**

(默誦: 大にして讃美たる神、爾がハリストスの生命を施す死を以て、我等を朽つるより朽ちざるに移しし者よ、爾は我等の悉くの官能が慾に殺さるるを免れしめ、内の思念を其善き導者となして此に添え給え、願くは目は凡の邪惡を視るに與らず、耳には空言入り難く、舌は非禮の言より淨められん、主よ、吾が爾を讃美する口を潔くせよ、我が手に惡しき行に遠かりて、唯爾を喜ばしむることを行うを得せしめ、凡そ吾が百體と意思とを爾の恩寵を以て固め給え、)

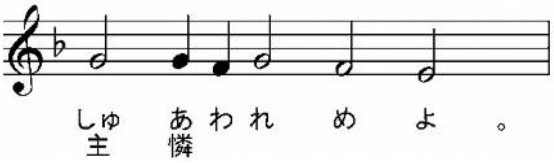
蓋、凡そ光榮・尊貴・伏拜は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、



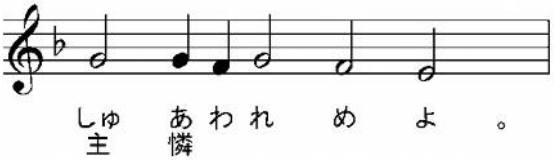
司祭）我等復又安和にして主に禱らん、



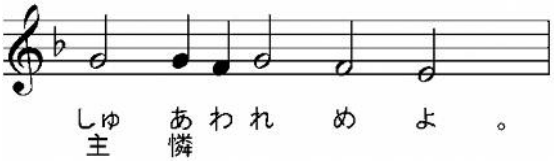
司祭）上より降る安和と我等が靈の救の爲に主に禱らん、



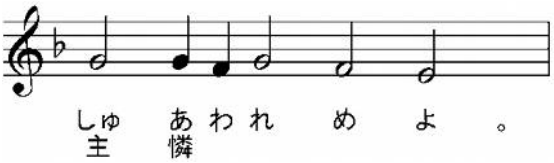
司祭）全世界の安和、神の聖なる諸教會の堅立、及び衆人の合一の爲に主に禱らん、



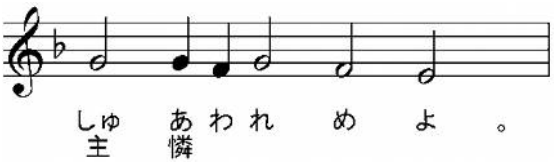
司祭）此の聖堂、及び信と愼みと神を畏るる心とを以て此に來る者の爲に主に禱らん、



司祭）我等諸の憂愁と忿怒と危難とを免るるが爲に主に禱らん、



司祭）神よ、爾の恩寵を以て、我等を佑け救い憐み護れよ、



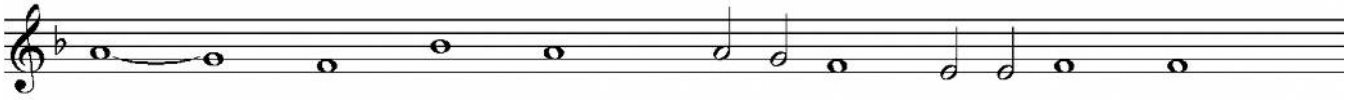
司祭）睿智、

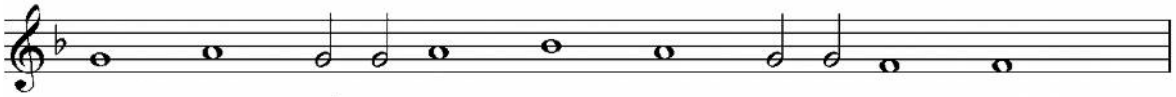
（黙誦: 聖にして至善なる主宰よ、爾憐の饒なる者に求む、我等罪人を憐みて、爾の獨生子、我が神、光榮の王を戴くに勝うる者となし給え、蓋斯の時此に入る所の彼の

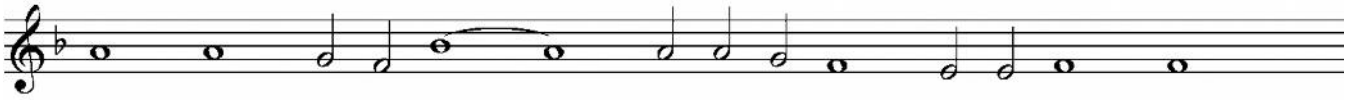
至浄なる體、及び生命を施す血、多數の天軍の見えずして荷い奉る者は、此の奥密の筵に進められんと欲す、祈る我等に罪を獲ずして之に與るを賜いて、我等が此に藉りて靈目を照され、光及び晝の子となるを致させ給え、）

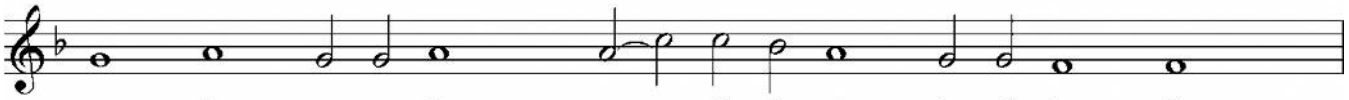
爾がハリストスの恩賜に依りてなり、爾は彼と至聖至善にして生命を施す爾の神と偕に崇め讃めらる、今も何時も世世に、

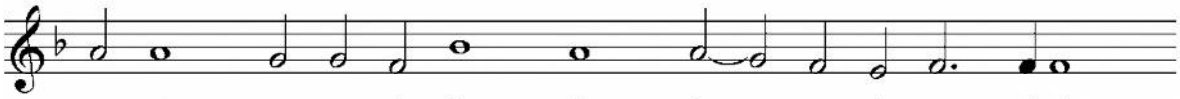
【　大聖入　】

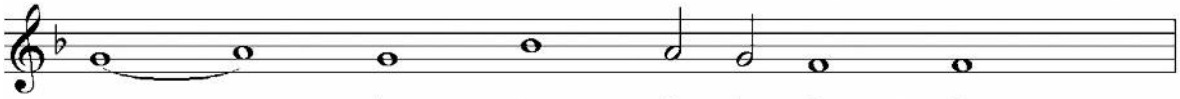




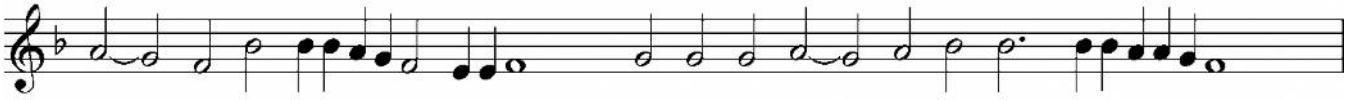


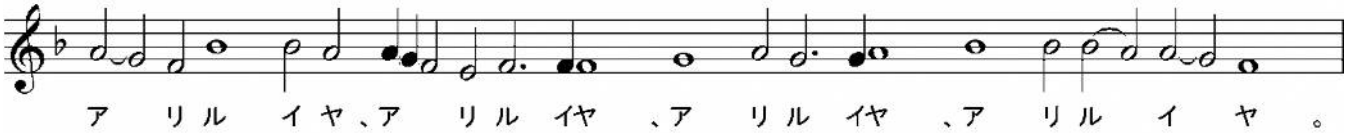






※　司祭が至聖所に入ってから



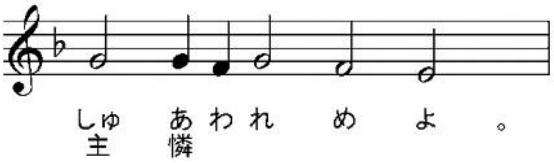


【 聖エフレムの祝文 】

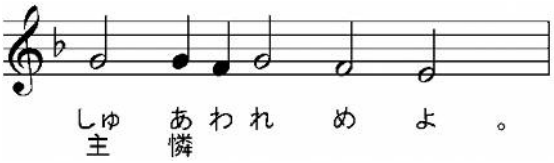
司祭）主、我が生命の主宰よ、怠惰と愁悶と陵駕と空談の情を我に與うる勿れ、貞操と謙遜と忍耐と愛の情を我爾の僕に與え給え、嗚呼、主王よ、我に我が罪を見、我が兄弟を議せざるを賜え、蓋爾は世世に崇め讃めらる、アミン。

【 増聯禱 】

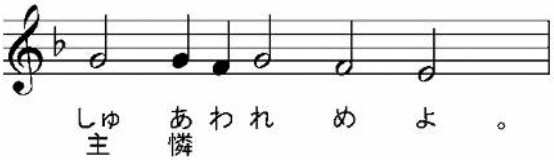
司祭）我等主の前に吾が晩の禱を増し加えん、



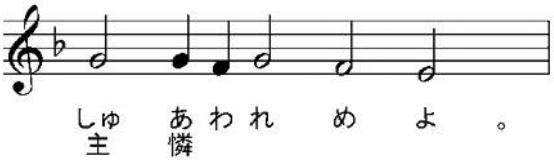
司祭）已に獻ぜられ及び先に聖にせられし尊き祭品の爲に主に禱らん、



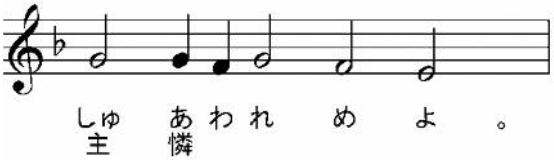
司祭）人を愛する我が神が、之を其聖なる天上の無形の祭壇に置き、屬神の馨香として享け、我等に報いて、神妙の恩寵と聖神の賜とを降すが爲に禱らん、



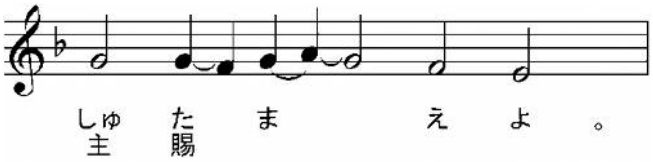
司祭）我等諸の憂愁と忿怒と危難とを免るるが爲に主に禱らん、



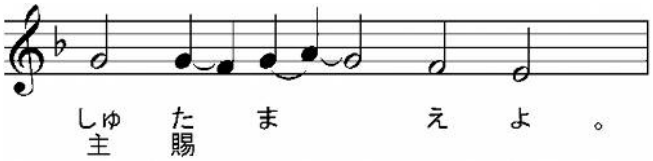
司祭）神よ、爾の恩寵を以て、我等を佑け救い憐み護れよ、



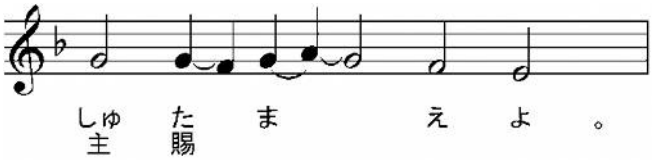
司祭）此の晩の純全・成聖・平安・無罪ならんことを主に求む、



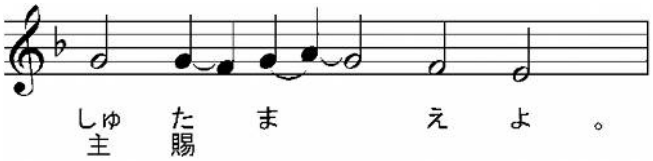
司祭）平安の天使、正しき教導師、吾が靈體の守護者を賜わんことを主に求む、



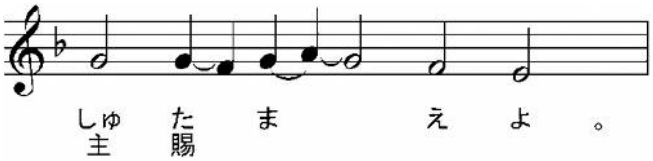
司祭）我等の罪と過とを宥め赦さんことを主に求む、



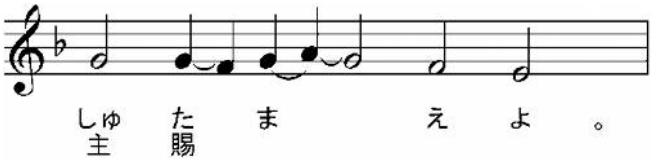
司祭）我等の靈に善にして益ある事、及び世界に平安を賜わんことを主に求む、



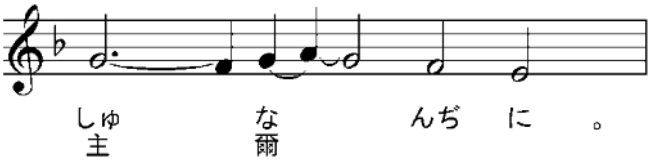
司祭）我等の生命の餘日を平安と痛悔とを以て終らんことを主に求む、



司祭）我等の生命の終がハリスティアニンに適い、疾なく、耻なく、平安なること、及びハリストスの畏る可き審判に於て宜しき對をなすを賜わんことを求む、



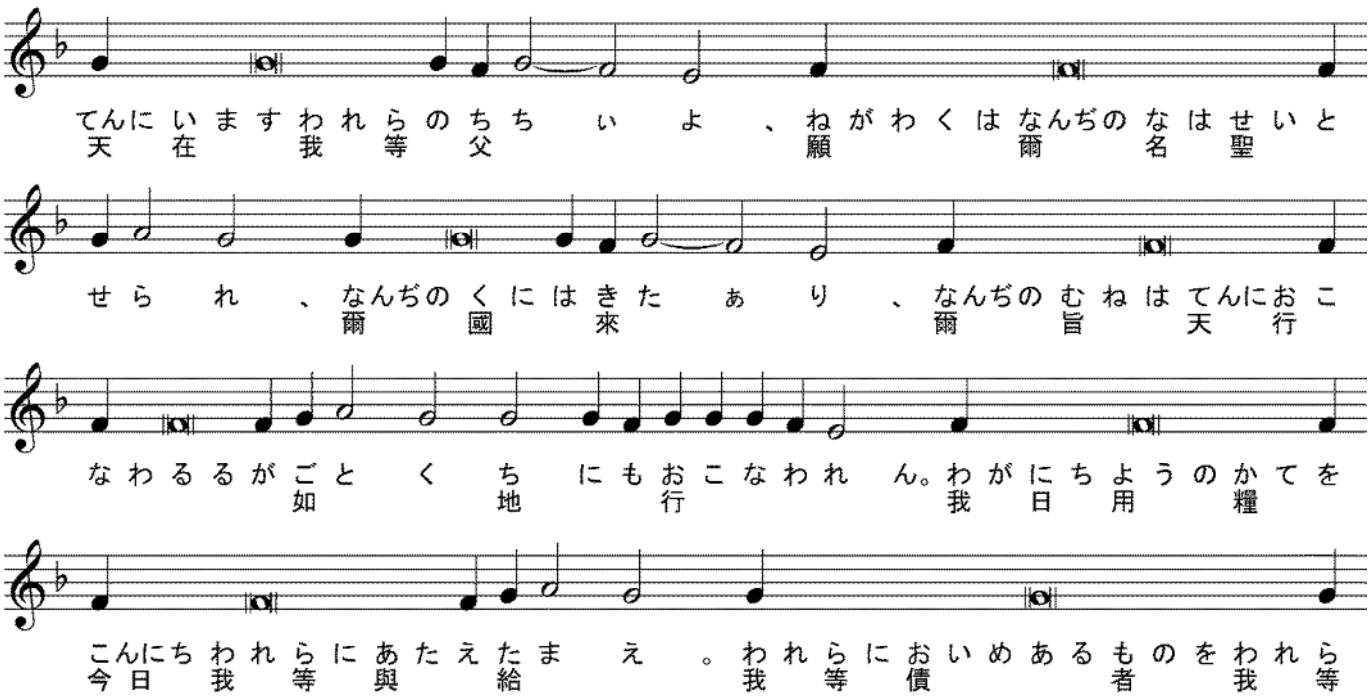
司祭）至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光榮の女宰、生神女、永貞童女マリヤと、諸聖人を記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、

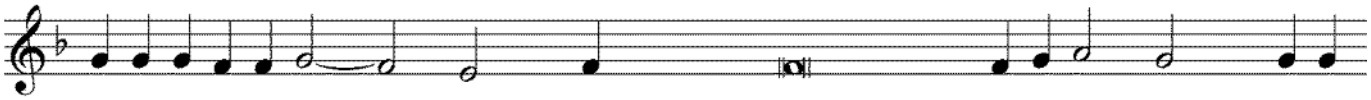


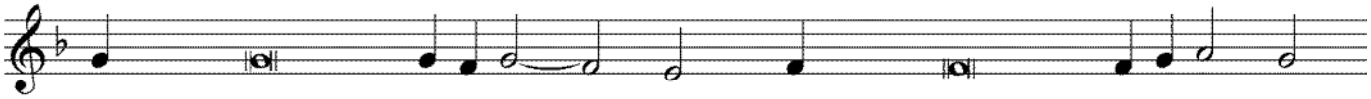
【　天主經　】

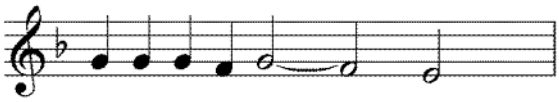
司祭)（ 默誦:言う可からず、見るべからざる奥密の神、其内に智慧と知識との寶を秘藏する者、我等に此の奉事の役を啓示し、爾が多くの仁愛に依りて、我等罪人を立てて我が罪と衆人の過との爲に爾に獻物と祭とを奉らしむる者、見る可からざる王、大にして測る可からず、光榮にして奇妙なる無數の事を行う主よ、爾親ら、爾の獨生子我が神が、此に備えたる畏るべき機密の中に安息する、此の聖なる祭壇の前に、爾がヘルヴィムの寶座の前に於けるが如く立つ所の我等爾が不當の僕を顧みて、我等及び爾が忠信の民を不淨より釋き、奪うべからざる成聖を以て我が衆の靈體を聖にし、我等が潔き良心、羞を承けざる面、照されたる心を以て、此の神妙なる聖品を領け、此に活かされて、爾のハリストス、我等の眞の神、吾が肉を食い吾が血を飲む者は我に居り、我も亦彼に居ると曰いし者に體合するを致させ給え、主よ、願くは爾の言は我が衷に居り、且つ行うに依りて、我等は叩拜せらるる爾が至聖神の堂となり、或は行、或は言、或は思に行わるる凡その魔の惡謀を免れて、古世より爾の喜を爲しし諸聖人と偕に、我等に約せし所の福樂を受けん、 ）

主宰よ、我等に勇を以て、罪を獲ずして、敢て爾天の神父を籲びて言うを賜え、

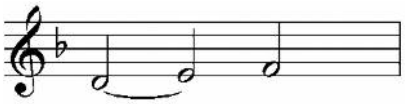




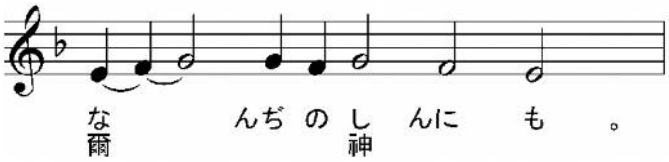




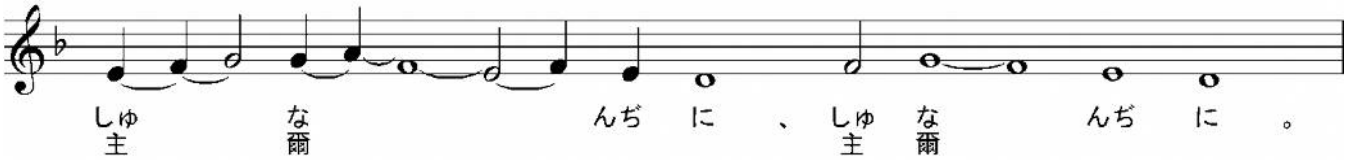
司祭) 蓋 國と權 能と光 榮は 爾 父と子と聖 神に歸す、今も何時も世世に、



司祭) 衆 人に平 安、

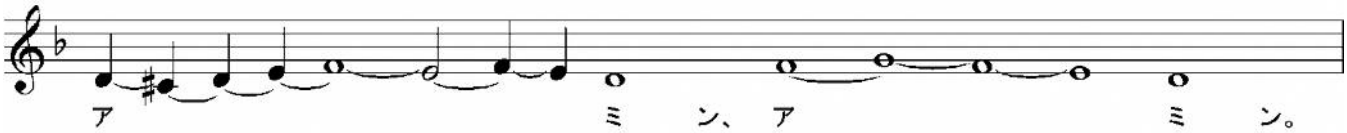


司祭) 我等の 首 を主に屈めん、



司祭) (黙誦: 獨 善にして愛 憐なる神、高きに居り 卑 きを臨む者よ、愛 憐の目を以て 爾 の 衆 民を 顧 みて之を護り、及び我等 衆 人に、罪を致さずして、此の 爾 の生命を 施 す機密を領くるを賜え、 蓋 我等 爾 の 豐 なる慈憐を恃みて、 爾 の前に 首 を屈めり、)

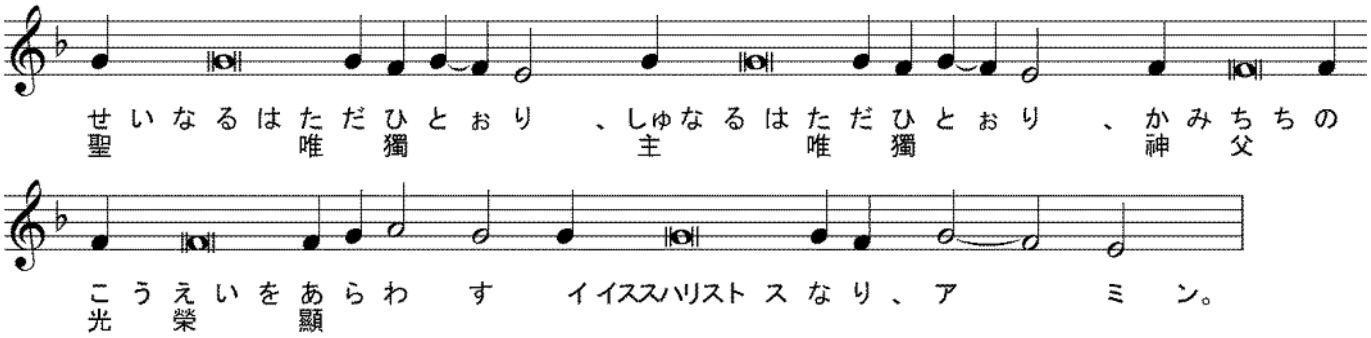
爾 が獨生子の 恩 寵 と慈憐と仁 愛とに因りてなり、 爾 は彼と至聖至善にして生命を 施 す 爾 の神と偕に讃 揚せらる、今も何時も世世に、



司祭) (黙誦 : 主イイススハリストス我等の神よ、 爾 の聖なる住所と 爾 が國の光 榮の寶座より 眷 み給え、上には父と偕に坐し、此には見えずして我等と偕に居る者よ、來りて我等を聖に

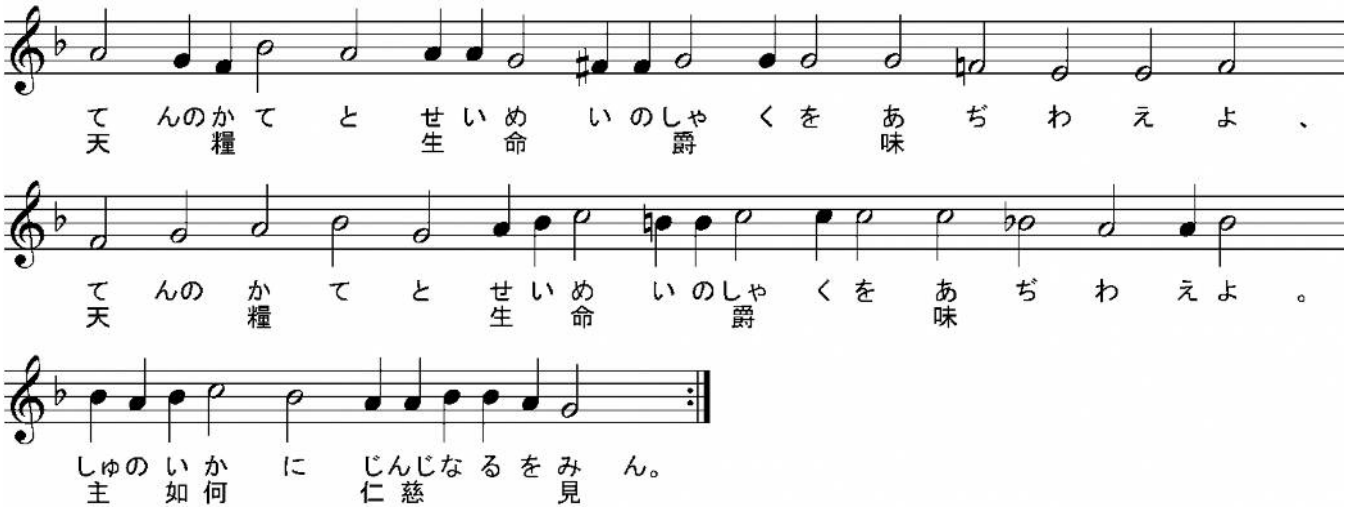
し、爾の權能の手を以て、爾が至淨の體と至尊の血とを我等に授け、又我等を以て衆人に授け給え、）

謹みて聽くべし、先に聖にせられし聖なる物は聖なる人に、



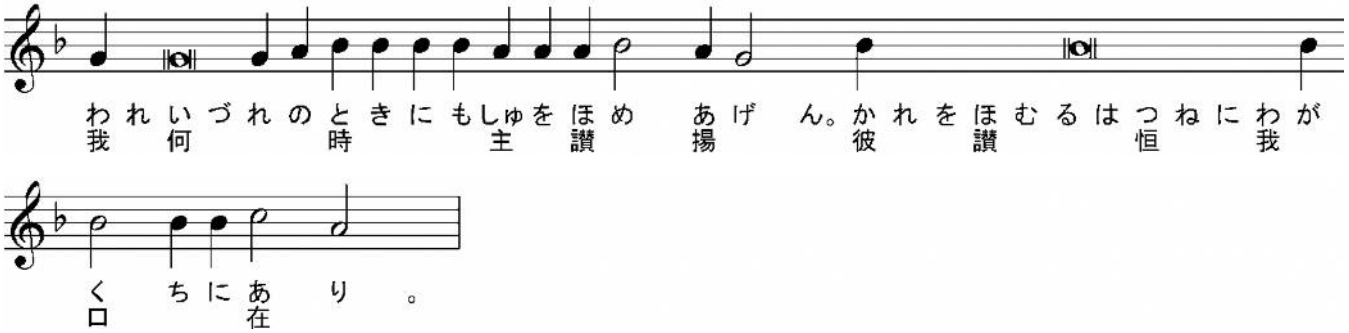
司祭)（黙誦：神の羔は剖かれ分たる、彼は剖かれて分離せず、恆に食われて永く盡きず、乃領くる者を聖にす、）

※ 次の領聖詞を、天幕が開くまで繰り返し歌う。



※天幕が開いたら下に移る。

司祭）神を畏るる心と信とを以て近づき來れ、



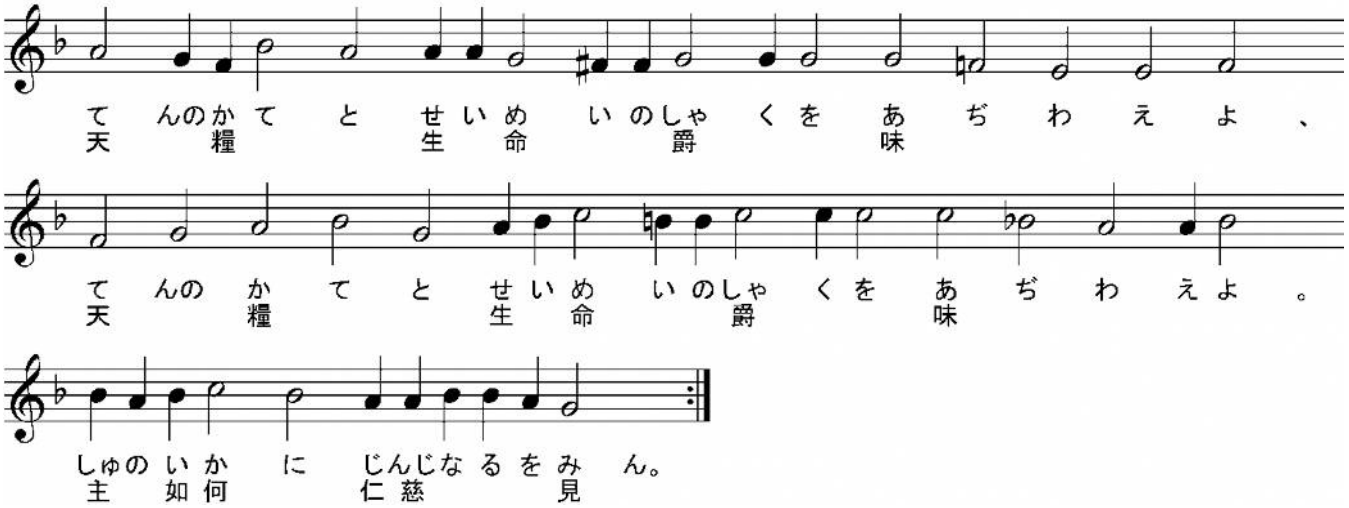
全員）主よ、我信じ且承け認めて、爾を實にハリストス生活の神の子、罪人を救うが爲に世に

來りし者となす、衆 罪 人の中 我 第 一なり、又 信ず、此れは 乃 爾 が至 淨の體、此れは 乃 爾 が至尊の血なりと、故に 爾 に祈る、我 を 憐 み、我が自由と自由ならずして、 言 と 行 にて、知ると知らずして、犯しし諸 罪を赦し給え、 並 に我に定 罪なく、 爾 が至 淨なる機密を領けて、罪の 赦 と永 生とを得るを致させ給え、アミン。

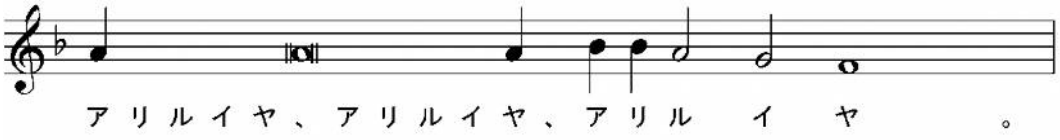
神の子よ、今 我を 爾 が機密の筵に 與 る者として容れ給え、 蓋 我 爾 の仇に機密を告げざらん、又 爾 にイゥダの如き接 吻を爲さざらん、 乃 右盗の如く 爾 を承け認めて曰う、主よ、 爾 の國に於て我を記憶せよと、

主よ、祈る、 爾 の聖なる機密を領くるは、我が爲に審 案 或 は定 罪とならず、 乃 靈・體の 醫 とならんことを、アミン。

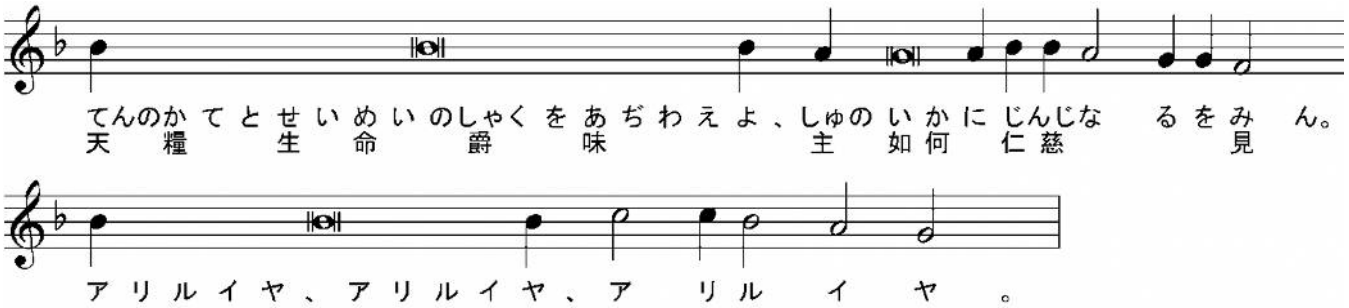
※ 信徒領聖の間、領聖詞を繰り返し歌う。



※信徒領聖が済み、全員が元の位置に戻ったら下の「アリルイヤ」を歌う。

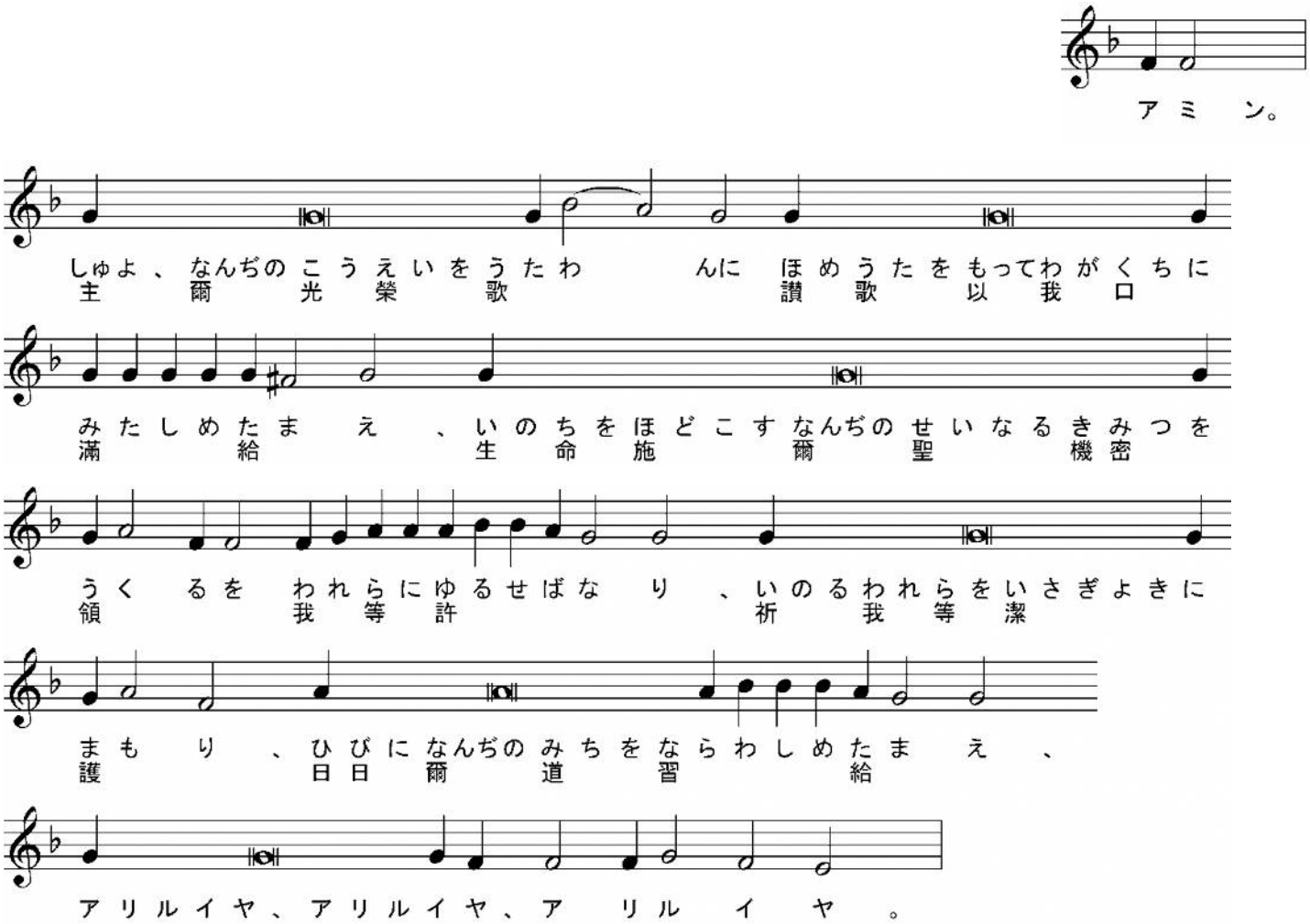


司祭）神よ、 爾 の民を救い、及び 爾 の嗣 業に福を降せ、

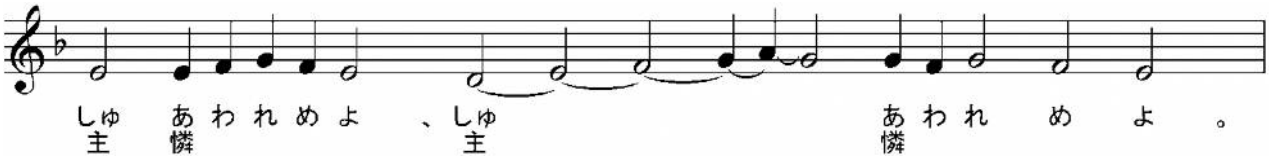


司祭)（ 黙誦： 我等の神は恒に崇め讃めらる、 ）

今も何時も世世に、

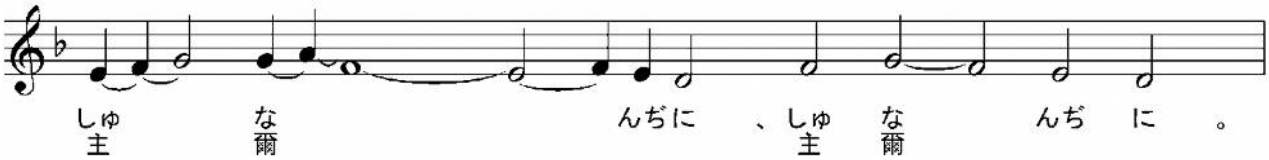


司祭) 謹みて立て、神聖・至淨・不死にして生命を施す天上の畏るべきハリストスの聖機密を領けて、宜しく主に感謝すべし、

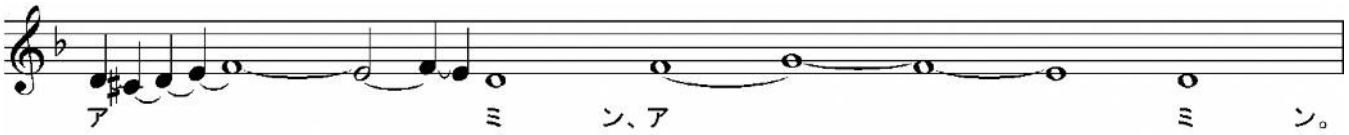


司祭) 神よ、爾の恩寵を以て我等を佑け救い憐み護れよ、

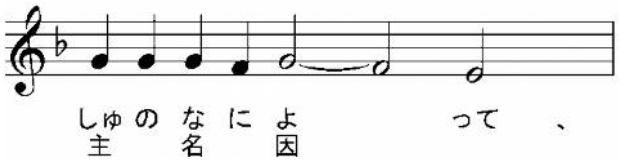
司祭) 此の晩の純全・成聖・平安・無罪ならんことを求めて、我等己の身及び互に各の身を以て、并に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、



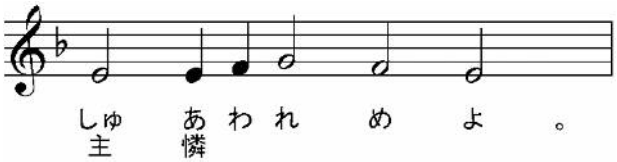
司祭) 蓋爾は我等の成聖なり、我等光榮を爾父と子と聖神に獻ず、今も何時も世世に、



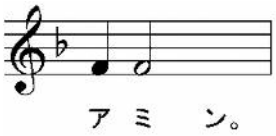
司祭）平安にして出づべし、

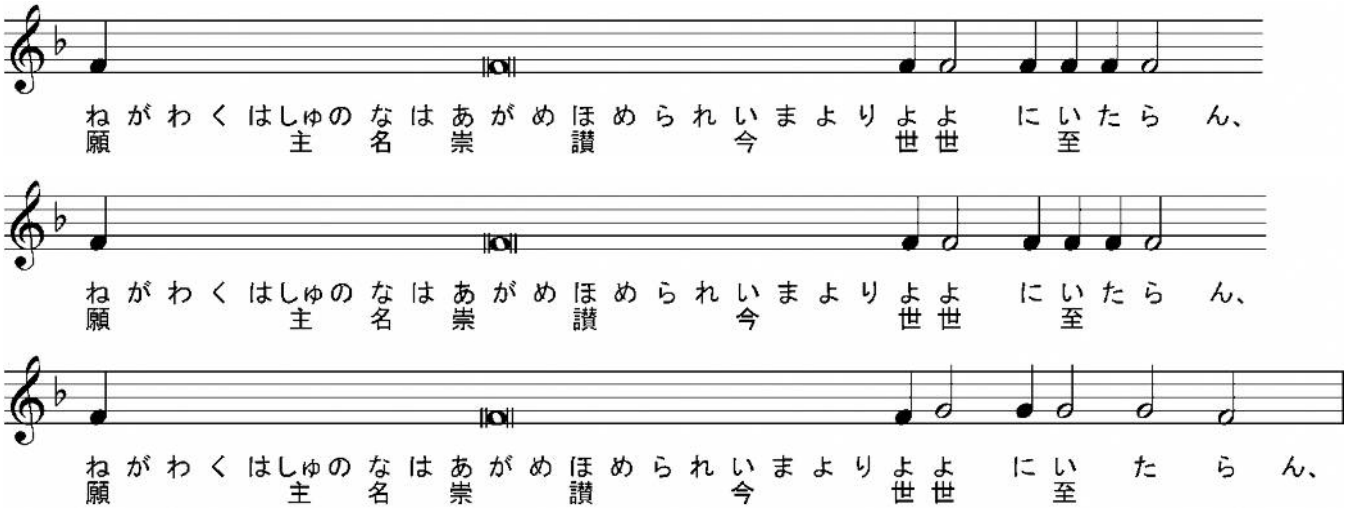


司祭）主に禱らん、



司祭）智慧を以て萬物を造りし主宰、全能者、爾の言い難き慮と多くの仁慈とを以て、我等を此の至と尊き日に導き入れて、靈と體との潔淨、諸慾の節制、復活の冀望を得せしめんとする主、四十日を以て神が録せし文字の石版を爾の僕モイセイに授け給いし至善者よ、我等にも善き功勞を遂げ、齋の程を經、貳ならざる信を守り、見えざる蛇の首を壞り、罪に勝つ者と顯われ、定罪せらるるなく、聖なる復活に至りて之に伏拜するを得せしめ給え、蓋父と子と聖神の至尊至嚴の名は讃揚讃榮せらる、今も何時も世世に、

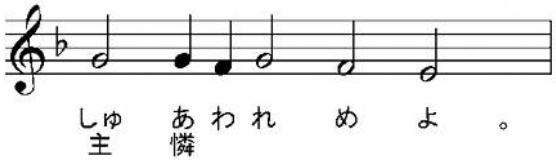




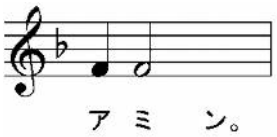
誦經）我何れの時にも主を讃め揚げん、彼を讃むるは恒に我が口に在り、我が靈は主を以て誇ら

ん、温柔なる者は聞きて樂しまん。我と偕に主を尊め、偕に彼の名を崇め讃めん。我嘗て主を尋ねしに、彼は我に聆き納れて、我が都ての危きより我を免れしめ給えり。目を擧げて彼を仰ぐ者は照されたり、彼等の面は愧を受けざらん。此の貧しき者呼びしに、主は聆き納れて、之を其悉くの艱難より救えり。主の使は主を畏るる者を環り衛りて、彼等を援く。味えよ、主の如何に仁慈なるを見ん、彼を恃む人は福なり。凡そ主の聖人よ、主を畏れよ、蓋彼を畏るる者は乏しきことなし。少き獅子は乏しくして餓え、唯主を尋ぬる者は何の幸福にも缺くるなし。小子よ、來りて我に聽け、主を畏るる畏を爾等に訓えん。人、生くるを望み、又壽えて幸福を見んことを欲するか、爾の舌を惡より、爾の口を譌の言より止めよ。惡を避けて善を行い、和平を尋ねて之に從え。主の目は義人を顧み、其耳は彼等の呼ぶを聆く。唯主の面は惡を爲す者に對う、其名を地より滅さん爲なり。義人は呼ぶに、主は之を聽き、彼等を悉くの憂より免れしむ。主は心の傷める者に近し、靈の謙る者を救わん。義人には憂多し、然れども主は之を悉く免れしめん。主は彼が悉くの骨を護り、其一も折れざらん。惡は罪人を殺し、義人を憎む者は亡びん。主は其諸僕の靈を救い、彼を頼む者は一人も亡びざらん。

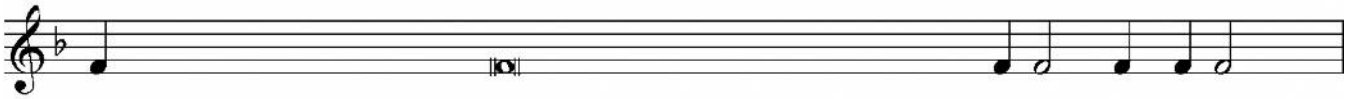
司祭）主に禱らん、

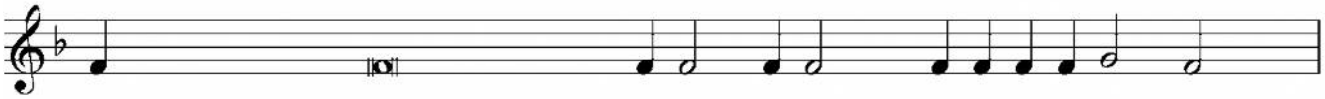
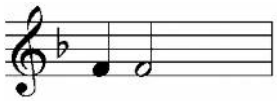
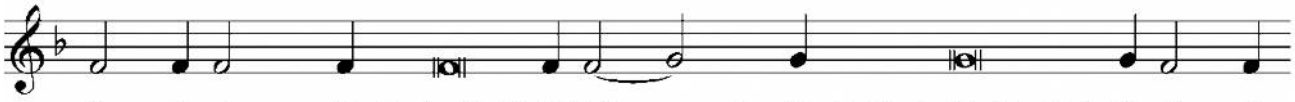
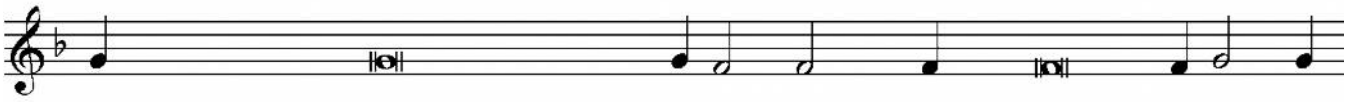
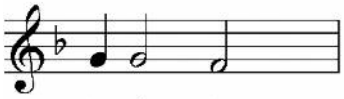


司祭）願くは主の降福は、其恩寵と仁愛とに因りて常に爾等に在らん、今も何時も世世に、



司祭）ハリストス神我等の恃よ、光榮は爾に歸す、光榮は爾に歸す、





司祭) ハリストス我等の眞の神は、其至淨なる母、(某)、我等の聖神父問答者グリゴリイ、聖にして義なる神の祖父母イォアキム及びアンナ、及び諸聖人の祈禱に因りて我等を憐み救わん、彼は善にして人を愛する主なればなり、